

わが子のあゆみ



岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

2015.9 NO.439

初秋号

第67巻2号

9

伝統

美濃加茂市ゆかりの坪内逍遙が目指した文芸の世界にひたり親しもうと、福原 徹さんによる笛の音色を味わい、日本の伝統文化に触れることができました。



5年生のマリン合宿

海でカヤックの体験をしてきました。息を合わせて「1、2」「左、右」のかけ声で見事ゴールしました。

みのかも しりつしもよねだ しょうがっこう
美濃加茂市立下米田小学校

●【学校の教育目標】

自主的に考え行動できる、かしこい子を育てる

●【目指す学校】

子どもの顔にSmileとSincereの見える学校

本巢市立一色小学校

●住所 〒501-0413 本巢市見延16番地
 ●TEL (058)324-0603
 ●FAX (058)324-1238
 ●URL <http://www.motosu-education.jp/isiki/>
 ●メール ishiki-es@city.motosu.lg.jp
 ●児童数 203名



▲校舎



校歌

一色小学校校歌
 作詞 大塚金夫
 補作 赤座憲久
 作曲 丸山春雄

一、伊吹峰を うつすやぶ川
 清らかな 流れに
 夢をうかべて
 そだてよう そだてよう
 仲間の心
 わたしたちの 一色小学校

二、宮杉は 空にほこだち
 あけがたの すじ雲
 高く いろどり
 よせあおう よせあおう
 仲間の思い
 わたしたちの 一色小学校

三、風光る 美濃の平野よ
 あすに向く 望みは
 花と 咲かせて
 かかげよう かかげよう
 仲間の願い
 わたしたちの 一色小学校



▲運動場の芝生化

「めあてをもって 共に生きる 活力のある 一色っ子」

○がんばりぬく子 ○やさしくする子 ○よりよくする子

学校の教育目標

学校の教育目標「めあてをもって 共に生きる 活力のある 一色っ子」の育成を目指すし、「挨拶」「みんなで楽しむ行事」「やる気いっぱいの授業」「最後までやり切る仕事（掃除）」を一色小の四つの自慢にできるよう全校で取り組み、一人一人の「○がんばりぬく心 ○やさしくする心 ○よりよくする心」の三つの心を磨らませ、誰もが幸せになれる学校を目指しています。

沿革・地域の自然や風土

本校は、明治五年に学制が發布され、愛敬学校を長屋地内に、守垣学校を見延地内に、鸛鳴学校を数屋地内に創立し、その後三つの校舎が合併し、明治十一年に一色学校として創立しました。昭和二十二年に一色小学校と改称され、平成十六年に町村合併により本巢市立一色小学校となりました。

校区には水田、柿畑、施設園芸を中心とした豊かな自然がたくさんあり、五月の後半になると校区内の用水にはホタルが飛び交います。本巢市は、昭和四十七年にホタル保護条例を制定し、地域のボランティアによる



▲子どもシェルター

守ろう体！ 食べることの大切さ



五年生は、総合的な学習の時間に地域の方のご協力とご指導

に遭った時に逃げ込む「こども110番の家」や、「地域のおじさん・おばさん」運動加入の家などを実際に確認しました。

この通学路の安全を少しでも高めようという目的で、ある自治会では緊急避難できる「こどもシェルター」を設けてくださいました。中にはポンチョ（かぶりしき雨具）や傘が置いてあります。

このように一色小校区では自治会長さん、役員さん、一色っ子見守り隊の方たちによって、子どもたちの安全・安心が守られています。



▲5年生 田植え

をいただいて、学校のすぐ前にある水田で米づくりを行っています。自分の体の健康や命に関心をもち、米づくりを通して食の安全についての課題を見付け、解決のための実践ができるようになってほしいと願っています。

本校では、自分たちで「もみ蒔き」を行い、苗を育てることから始めています。もみから芽が出て、苗が育ったら「田植え」です。学校の周辺に水田はたくさんありますが、水田に入って田植えをした経験のある児童はほとんどいません。苗の植え方を教えてもらい、作業を進めました。今年度も、苗を多く取り過ぎたり、しっかりと土に苗をささなかったりして、やり直す姿がありました。

田植えが終わった後の水の管理の仕方とも教えていただき、毎

一色ライブラリーは本のこたまり



一色小の八角形の屋根の下には、素敵な図書館があります。本校では、これを「一色ライブラリー」と呼んでいます。一色っ子が本に親しみ、読書が大好きな子になってほしいと願い、図書委員会が中心となり、「親子読書」「図書館祭り」等を開催して、全校に働きかけています。



▲図書委員会による大型絵本の読み聞かせ



▲岐阜地区図書館教育最優秀賞

具体的には、図書館を活用して以下のような児童になってほしいと願っています。

- ・図書館の仕組みを知って正しく使える子
- ・自分から進んで読書する子（二万冊読破、必読図書の読破）
- ・自分の課題を、資料を使って調べるができる子

平成二十三年度には岐阜地区図書館教育最優秀賞もいただきました。図書館には素敵な宝物がたくさんあります。一色っ子は、トレジャーハンターとなって宝物を探しに、一色ライブラリーへ出掛けています。

小学校と中学校の連携から、地域の連携へ



「エコキャップを集めて人の命を救おう」

糸貫中の生徒会執行部員が、このキャンペーンの説明に一色小を訪れ、一色っ子に呼び掛けてくれました。一色っ子もこの呼び掛けに応え、二週間ほどで約一万个のペットボトルのキャップを集め、糸貫中学生会へ渡すことができました。

糸貫中学校区では、こうした小中学校の連携だけでなく、地域が一丸となって青少年を育てています。

毎年十二月には、糸貫中学校の生徒（一色小の卒業生）が企画・運営の中心となり「地域づくり事業」を行っています。昨

地域ぐるみで子どもを守る



下校中に大きな地震が起こった時に、子どもたちの安全をどう確保するか…。

四年前の東日本大震災をきっかけに、三年前から自治会長さんはじめ地域の方々とPTA・学校が連携して「命を守る訓練」を行っています。ある自治会では、公民館（防災センター）で、保護者が迎えに来るまで預かってくださる仕組みを作ってくださいました。他の自治会でも避難できる場所を増設していただきました。



▲命を守る訓練

年度は、「つながる」をスローガンにクイズラリーや室内遊びを行いました。

こうした世代を超えた地域の人々が交流することを通して、地域の方々がつながり、絆を強め地域一丸となって、地域をよくしていこうとしています。



▲小中連携して取り組んだエコキャップ活動



▲「地域づくり事業」クイズラリー



【いびがわちようりつ おじましようがっこう】

揖斐川町立小島小学校

●住所 〒501-0633 揖斐郡揖斐川町小島139
●TEL (0585)22-1273
●FAX (0585)22-6785
●メール c30405@mx.gifu-net.ed.jp
●児童数 200名



▲小島小学校校舎(後方は小島山)

校歌

小島小学校校歌

作詞 各務 虎雄
作曲 河野 信一

一、小島の宮の あとにころ
山門高し 瑞巖寺
みおの業の かしこさに
学びの道にいそしみて
えい智正しく とぎすまし
まことの文化
われら 開かん

二、若あゆおどる 揖斐川の
妹背の瀬波 にじとちる
教えのにわの あけくれに
明るく 強く 身をきたえ
みのり豊けき わが里の
とわの栄えを
われら 興さん



▲実のなる木がたくさん植えられた森です。

自ら学ぶ意欲をもち 明るく元気で たくましい小島の子

－考える子 助け合う子 きたえる子－

本校は、町の南部に位置し、揖斐川、粕川に囲まれた自然豊かな田園地帯にあります。
校区には、南北朝時代に建立された瑞巖寺があり、北朝の帝である後光厳天皇が都での戦乱を避けて、三ヶ月間滞在されたといわれています。また近くには、天皇を追って美濃国小島に入った関白二条良基が立ち寄ったとされる「蘇生の泉」や八百年前から伝わる「白樺踊り」が伝わる白樺地区があり、歴史と文化に恵まれた地域でもあります。



▲旧校舎玄関にあった「鬼瓦」

本校は、明治八年に「秉彝舎」として創立しました。校名の「秉彝」は、「道徳の実践を大切にする」という意味です。昭和二十二年に「小島小学校」と改称し、現在に至っています。

沿革・地域の自然や風土

「誇り」に思える学校

学校が「楽しい」「好き」という子がたくさんいます。その思いを「誇り」に変えられるように取り組んでいます。

①「考える子」をめざして
自力で課題に立ち向かい、自分の考えをもち、仲間と考えを交流する中で考えを深めることができるよう、子どもが主体となった授業づくり心がけています。

②「助け合う子」をめざして
仲間の言動の価値に気づき、認め合う姿が増えてきています。一人一人の「よさ」に目を向け、認め励ますと共に集団として高まることのできる学級経営の充実を目指しています。

③「きたえる子」をめざして
自らの体をきたえようと共に、「自分の命は自分で守る」を大切にした交通安全教室、命を守る訓練等の充実や日頃からの指導を心がけています。

小島小七ヶ条
この条文は、五十年以上前から続く実践目標であり、本校の伝統となっています。初めは「小島小学校六ヶ条」でした

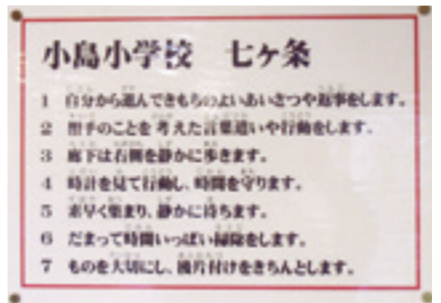
又ギ、トチノキをはじめ名前の通り、果物など実のなる木（ヤマモモ、イチジク、柿、梅、ミカン、柚子、グミなど）があり、私たちを楽しませてくれます。また、この森は、児童にとって絶好の遊び場となっています。

作られたのは今から七十〜八十年前とも言われています。近くを通りかかる地域のお年寄りの方が「私が小学生の頃、この池の中にある日本列島に飛び移り、遊んだものです。そう、富士山もあって、そこは高くなっていたはず。佐渡ヶ島もありました。」と懐かしそうに池の思い出を語られます。現在、児童はこの場所に近寄ることができませんが、安全を確保し、かつてのような憩いの場にできないものかと思案しているところでもあります。

みのりの森
広い校庭の南側には、様々な樹木が植えられた「みのりの森」があります。ムクノキ、ク



▲みのりの森は木陰がいっぱいあります。



▲歴史のある小島小学校七カ条

が、時代の変遷と共に児童の実態も変わり、それに合わせて内容も変わってきていますが、本校では伝統として大切にしている条文です。
現在、特に意識して取り組み、成果をあげている姿を紹介します。

○全校が集まる集会では、素早く集まり、静かに待てる。
○自分や仲間を大切するために心温まる「ほかほか言葉」を積極的に遣う意識の高まりがある。

○時間いっぱい黙って掃除をする姿が増えている。
○後片付けに繋がる、トイレのスリッパをそろえる意識が高まっている。
今後小島小学校の伝統として引き継いでいきます。

四十名の安全サポーター
学校近くの山には採石場があり、真っ直ぐに伸びる道路を大型トラックが頻繁に走っています。また、農業が盛んな地域であり、校区内には多くの農業用水路があります。水量は多く、流れも速いため、地域の方々が、子どもの登下校の安全確保のために、毎日安全サポーター



▲安全サポーターさんと登校する児童

花の栽培活動
本校では、特色ある教育活動の一つとして花の栽培活動に取り組んでいます。美しい花を咲かせる活動を通して次のような心や力を育てていきたいと考えています。

○優しい思いやりの心や自然を大切にすることを育てる。
○勤労の喜びや根気よくやりぬく実践力を育てる。
○花を地域の人々に配り、感謝の心・奉仕の心を育てる。
○学校環境を美しくし、花を通して地域と交流することにより、地域や学校への愛着と誇りを育てる。



▲H26 FBCの春・秋の花壇で入賞しました。

として、ボランティア活動をしていただいています。児童と共に分団の登下校について歩いてくださる方や交差点に立って、交通安全を見守ってくださいの方など、合わせると四十名にもなります。登校時に学校までついて来て下さったサポーターさんに「今日もありがとうございました。」と高学年の児童を中心に御礼の声をかけることが定着しています。

お父さんの会・親父の会
現在現役のPTA会員のお父さんの有志の方は「お父さんの会」に、PTA会員OBのお父さんの有志の方は「親父の会」に所属され、校庭の草刈、池の掃除、樹木の剪定、大工仕事など、依頼をすればできる範囲で快く引き受けてくださり、心強い学校のサポーターです。

高山市立久々野小学校

●住所 〒509-3205 高山市久々野町久々野1772番地
●TEL (0577)52-2013
●FAX (0577)52-2829
●メール kugunoshou@edu.city.takayama.gifu.jp
●児童数 183名



▲久々野小学校舎

校歌



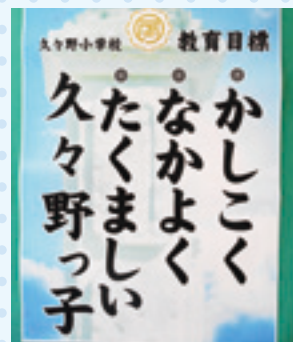
久々野小学校校歌

作詞 吉村比呂詩
作曲 河野信一

一、ひばりが丘の 朝風に
今日も晴れゆく 青い空
花咲く春は 窓近く
小鳥も歌う 楽しさよ
我らの 久々野小学校

二、緑の夏は 舟山に
伸びる若葉の 銀の色
輝く夢を そのままだに
うつして光る 明るさよ
我らの 久々野小学校

三、正しく強く 育つ子の
教え守りて 秋の日も
冷たい雪の 降るときも
励みて学ぶ うれしさよ
我らの 久々野小学校



▲学校教育目標

かしくく なかよく たくましい 久々野っ子

学校の教育目標

学校の沿革と風土

明治六年十二月、御母衣学校として創立、昭和二十二年四月に学制改革に伴い久々野小学校となりました。その後、平成十七年二月、市町村合併により、高山市立久々野小学校となり、創立から百四十年以上の歴史があります。

校区は高山市南部に位置し、地域では朝昼の気温差を利用した果樹栽培や野菜の栽培が盛んに行われ、「りんご」「もも」「ほうれんそう」「しいたけ」などの名産品が数多くあります。

近くにはスキー場もあり、冬場は全校でスキーを楽しみ、雪の季節を満喫しています。豊かな自然の中、地域の方々に見守られて子どもたちは伸び伸びと生活しています。

なかよし班活動



本校で行っている縦割り班活動を「なかよし班活動」と呼んでいます。なかよし班活動では、「毎週の遊び」「掃除」「なかよし班ミニオリンピック」「読み聞かせ」などを行い、班で協力して活動したり、上級生が下級生に教えたりし



▲なかよし班遊び「新聞紙からはみだしただめ!」

て、関わりを深めています。「掃除」では毎日の掃除の様子から各班の掃除名人を見つけ、全校放送で伝えています。

「ミニオリンピック」のオリエンタリングでは、学校の周辺をコースにして、なかよし班で相談して作ったクイズを各ポイントで解きました。日頃はあまりじっくりと見ることがない



▲なかよし班掃除「こうやってやるんだよ。」

場所を見たり、グラウンドで縄跳びをしたりして、縦割りならではの上級生のリーダーシップや励まし、下級生が上級生を慕う姿が見られる会です。学校へ帰ってきてから、班で頭を寄せ合って答え合わせをする姿が微笑ましかったです。

「読み聞かせ」ではリーダーがあらかじめ本を選び、読みの練習をして下級生に読み聞かせました。下級生はお話の中に入り込んで聞いていました。時折こぼれる笑顔、さし絵を見つめるきらきらとした目。学校内にゆったりとした時が流れました。

思いや願いをもった児童の自主的な活動から「自分から取り組み、やりぬく子」の育成を目指しています。

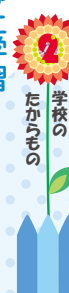


▲なかよし班「読み聞かせ」



▲「位山官道」を歩く

郷土学習



「地域を知り、地域から学ぶ」ことで、地域の方々の仕事に対する思いを受け止め、自分の住む地域を見つめる郷土学習に取り組んでいます。

久々野町には、果物や野菜を作っている農家の方々が多くみえたり、文化的な遺産もあり、自分達が住んでいる地域のことをより深く知る場がたくさんあります。

たことに驚きを感じながらも、歩いた人々に思いを馳せたことが、修学旅行先の「京都・奈良」での学びの広がりにつながりました。

「安全でおいしい果物」を作るための工夫や努力を知ると、実った果物を手にした時に、自然に、おいしさをかみしめ味わって食べよつという気持ちになります。

地域の皆さんに支えていただいているこれらの学習活動が、平成二十六年年度には「岐阜県ふるさと教育表彰」優秀賞を受賞しました。今後も一層学びを深めていきます。

安心して食べることができる「安全でおいしい果物」を作るための工夫や努力を知ると、実った果物を手にした時に、自然に、おいしさをかみしめ味わって食べよつという気持ちになります。

PTA活動との連携



学校と保護者の方々との連携活動も着実に根付いています。

母親委員会主催の六年生児童と保護者による「トイレピカピカ掃除」では、保護者の方にトイレ掃除の技を教えていただくことで、日頃の掃除のなかで自分達ではなかなか落とすきれいな汚れを落とすことができるようになりました。掃除のあとはとてもすっきりして、空気が清々しくなっていることを感じました。



▲アグリマミーの会「野菜のお話」

また、六月に行った、六年生親子の「給食試食会」では、給食を食べる前に地元農家で食育の活動に取り組んでいる「アグリマミーの会」の方のお話を聞きました。久々野で採れる野菜のおいしさについて学び、その後久々野産の野菜を使った給食を親子で食べました。向かい合っの食事で会話はずみ、じゃがいも、ほうれん草など新鮮な地元の野菜を味わって食べました。十一月には一年生親子も「給食試食会」「食育の学習」を予定しています。

趣旨でPTA学級委員会が中心となり、参観日前の一週間を「子どものノートを見てみよう」という、家庭学習週間を実施しました。子どものノートを見て保護者がコメントを書き、それを担任が見て励まし、子ども達の学習意欲が高まるようになりました。



▲トイレピカピカ掃除「磨き上げたトイレの床、便器さわやかな空気を感じました。」



【ぎふしりつしまちゅうがっこう】

岐阜市立島中学校

●住所 〒502-0939 岐阜市則武西1丁目8番2号
 ●TEL (058)232-4141
 ●FAX (058)232-4142
 ●メール gichu08@shima-j.gifu-gif.ed.jp
 ●児童数 618名 (平成27年7月1日現在)



▲校舎

学校の教育目標 志をもち共に向上する

本校は、昭和二十二年に第八中学校として創立され、翌昭和二十三年八月に岐阜市立島中学校と校名変更し、今年度で開校六十七年目を迎える伝統と歴史のある学校です。

校区には、南北に環状線が整備され、大型店舗等が立ち並び、商業地として、さらには新興住宅地として環境も大きく変化してきています。また、都市近郊農業地帯として、農家も多くあります。三世代家族と核家族とに家庭環境は大きく二分されるが、地域の大人が総ぐるみで子どもを育てるという意識が浸透してきています。

学校の教育目標

「志をもち共に向上する」生徒の育成を目指し、今年度は〈誰もが安心して頑張れる学校仲間と共に活動できる学校〉を目指そう！を合言葉に特に島中五本柱（授業、掃除、合唱、部活動、ボランティア）を大切にして取り組んでいます。その中で、特に活発な活動について宝物として紹介します。

沿革・地域の自然や風土



清掃活動とつないだボランティア活動

日常の十五分間の清掃時間を大切に、私語を無くし黙々と清掃をする姿を目指し、日々取り組んでいます。また、生徒会では「よくし隊」をボランティアで結成し、月に二回程度、廊下



◀「よくし隊」の活動

の壁や窓ガラスなどの清掃に殆どの生徒が取り組んでいます。合い言葉の「安心して頑張れる学校」や「仲間と共に活動する」というところにつながっています。またこうした活動が、「早田川清掃」などの地域の様々な活動に多くの生徒がボランティアとして参加する姿にもつながっています。



早田川清掃▶



島中学校校歌

作詞 高木 義明
作曲 丸山 春雄

一、金華の嶺に 雲湧きて
希望遙けく 進みゆく
向上の道 ひとすぢに
ああ島中 若人われら
共に学ばん 故郷の
明るき未来 望みつつ

二、緑の沃野に 風渡り
大地踏みしめ 歩みゆく
友情の詩 さやかに
ああ島中 若人われら
共に鍛えん 故郷の
明るき未来 願いつつ

生徒が進んで打ち込む部活動



本校では運動系の部活動が十、文化系の部活動が二の合計



▲部活動の様子



挨拶を大切にしたり取り組み

本校では、登校時に校門で先生方だけではなく、生徒会執行部、保護者の皆さんが学校の敷地内のあるちで挨拶運動を展開しています。また、部活動をしている生徒たちも練習の最中



▲小中合同挨拶運動



地域の大人が総ぐるみで子どもを育てるという姿

であつても地域の方等を目にとると、大きな声で挨拶ができません。こうした力を授業の中でも生かそうと、始業と終業の挨拶を気合いを入れて行っています。

また、小中一貫教育推進事業の一つとして、小学校とも連携して、十月に小中合同挨拶運動も実施しています。

自治会や青少年育成市民会議などの地域の組織だけではなく、「おやじの会」という保護者を中心とした組織が校舎内の修繕や中庭の掃除、夜間パトロールなど地道で積極的な取り組みにより、地域の子どもを地域の大人みんなどで見守るという意識が非常に高く、こうした意識や姿が、最近の子どもたちの落ち着いた学校生活につながっています。

◀おやじの会の活動



▲階段手すりのペンキ塗り

わが子のあゆみ

2015.9 No.439 初秋号

表紙 美濃加茂市立下米田小学校

学校のためもの 1

本巣市立一色小学校／揖斐川町立小島小学校／高山市立久々野小学校／岐阜市立島中学校

わが家の宝物 美濃加茂市富加町中学校組合立双葉中学校PTA 会長 堀田泰史 9

特集・講演 「ほめて育てる子どもの力」=前編 11

一般社団法人ほめる達人協会 理事長 西村貴好

家庭教育応援団！⑩ 可児市立広見小学校 17

中津川市立福岡中学校

シリーズ「療育」⑫ 岐阜県立郡上特別支援学校PTA 19

お弁当の日 岐阜市立加納中学校PTA 21

保健室ノート 大垣市立東小学校養護教諭 高木綾子 23

私の先生⑩ 坂祝町立坂祝中学校 教頭 白田伸幸 25

子育て半生記 中津川市立西小学校 校長 鈴木俊二 27

ボランティアニュース [vol.6] 29

美濃市立美濃小学校PTA
美濃市立牧谷小学校PTA
美濃市立大矢田小学校PTA
美濃市立美濃中学校PTA

私が出会った1冊の本【続23】 31

御嵩町立御嵩小学校PTA 会計 三輪紫珠香
岐阜市立藍川北中学校PTA 会長 吉田美年子

わが家の約束 33

各務原市立鵜沼第一小学校PTA 会長 神谷博幸
瑞浪市立稲津中学校PTA 研修委員長 工藤健一

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い
瑞穂市立南小学校小学校 2年 すずきそうま
山県市立美山小学校 6年 木村莉子
郡上市立郡南中学校 3年 末松昇悟

親の願い
美濃市立中有知小学校PTA 堀江まゆみ
加茂郡七宗町立上麻生中学校PTA 会長 今瀬芳尚

教育の窓
中津川市立苗木小学校 校長 古川直利
海津市立南濃中学校 校長 石原 武

親子ではてな 40

インフォメーション 41

お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42
なすフライの肉みそかけ

ふるさとの伝承 43

中津川市立下野小学校

きらり!キッズ! 45

岐阜市立木田小学校

夢中!熱中!我らが部活 47

本巣市立糸貫中学校

私たちのPTA 49

下呂市立馬瀬中学校

わが家の宝物

美濃加茂市富加町中学校組合立双葉中学校
PTA会長
堀田 泰史



バレーボールが、
家族の宝物です



長女が、小学校四年生の時、一緒にワールドカップのバレー中継を見てると、「私もバレーボールをやりたい」と長女がいました。バレーボールをやりたいと言っても、私たちの町にはスポーツ少年団もなく、妻がさまざまな方に聞いて隣の町にあるスポーツ少年団に入ることになりました。長女はスポーツ少年団の練習に、週末になると、妻の付添いで行きました。体が大きいこともあり、スポーツ少年団では、アタッカーをやっていました。妻も、毎週練習

平成六年五月一日に、私の人生の中で、最高のできごとがおきました。それは結婚です。妻は、中学時代に、部活動で卓球をやっていたので、バレーボールには全く興味がありませんでした。平成七年に、待望の長女が誕生しました。長女は、生まれた時から、体が大きく、たくましい子どもでした。長女について次女、長男が生まれ、結婚から六年で、私、妻、三人の子どもの五人家族になりました。

中学校を卒業し、高校、大学、社会人となりましたが、バレーボールとは無縁の生活を送っていました。ただ、四年に一度のワールドカップについては、テレビの前で応援していました。



に付き添っていたので、バレーボールに興味がわいてきたようです。長女の姿をみていた次女、長男も、バレーボールをやりたいと自分から言って、バレーボールをやるようになりました。長女は中学校でバレーボールをやめてしまいましたが、次女と長男は現在も、バレーボールを続けています。妻は、子どもたちの応援に、週末は忙しい日々を送っています。私も、子どもたちの試合はできるだけ応援に行くようにしています。私たち家族にとってバレーボールは、たくさんの友達、家族の絆を深めてくれる大切な物になりました。バレーボールは、私たち家族の大きな宝物です。



「ほめて育てる 子どもの力」

定期大会記念講演抜粋Ⅱ前編

一般社団法人ほめる達人協会

理事長 西村 貴好



みなさん、今日は。ただ今ご紹介いただきましたほめる達人協会の西村貴好です。本日は岐阜県PTA連合会の講演会にお呼びいただきましたまして有難うございました。

今から前のスクリーンに映像を映しますが、準備をする二十秒の間に、お隣の方、前の方、後ろの方三人以上の方と握手をしてください。はい、有難うございます。これからスクリーンにバスケットボールをする二組のチームが出てきます。皆さんにお願いしたいのは白いシャツを着ているチームが一分弱の間に何回パスをしたか、数えておいていただきたいのです。余裕のある方はワンバウンドパスが何回、空中パスが何回かまで数えておいてください。

(映像映写)

はい。順番に数を言っていきますので、その時に挙手をお願いします。ワンバウンドパス、空中パス合わせて十一回という方、はい十二回、はい十三回……はい十八回、十八回以上。えー、正解は十五回だそうです。但し、うまく映っていない前後の縦パスというのが一回あって、十六回というのも正解です。

でも、私はこの一分弱の映像の中に「変な物を見たんだけど」という方いらっしゃるかもしれませんか？はい、何が見えましたか？ゴリラ？ゴリラみたいなものが見えたという方、はい有難うございます。そんなもの見えなかったよ、という方、(大勢が挙手)ですよねですよね。巻き戻してみます。はい、ゴリラがゆっくり出てきて、こっちを向いて、胸まで叩いて、そして去っていく。確認するために、もう一度見直してみしましょう。先ほどと全く同じ映像です。ゴリラがゆっくり出てきて、胸を叩いて去っていく。見えましたね。

ゴリラが見えた人、 見えない人

このパスを数える、そして見えないゴリラ。なぜこれを皆さんにやっていただいたのかというと、これと同じ事を私達が日常生活の

中でやっていないか、ということなんです。

あのゴリラ、最初から見えないという人はどの会場でも大体一割から二割位。残りの八割九割の人はあのゴリラ最初見えないんです。ところがあのゴリラ、見える人か

らすると「あんな変なもの、毛むくじゃらで、横から出てきて、胸まで叩いて、見えない訳がないよね。あれは、パスを数える集中力を邪魔するために入れられているので、みんな見えてるんだけれどど敢て言わないだけだね。」と。

ところが自分にははつきり見えてるものがまん前の人には見えてない。パスを数えることに一生懸命になってしかもそれを間違えて苦しんでいる。そんなことは無いだろうか。そしてあのゴリラのように、みなさんのお子さんの頑張

つけて、そしてもう一度数を数え直してみたら確かに十五回でした、十六回でした。私たちの周りに存在しているんだけど、気づいていない。そういう心の視野を広げて気づいていなかったものに気づいていく。そしてこの人生の素晴らしさを、共に子どもたちに伝えていく。人として本当に魅力的になる。これがほめ達になるということです。

子どもの自己肯定感 は大人が作る

皆さんは子育てを通じて何をしているか？自分育てなんです。先ほどの自己肯定感の話がありました。子どもたちの自己肯定感はあるが作るかと言うと、大人達なんです。何が一番問題かと言うと、子どもを取り巻く大人達の自己肯定感が実はものすごく低いことなんです。

そこでまず、自分で自分のことを認めてあげるんです。そのことによって子育てってしんどいこと

がたくさんあるけれど、本当は子育てほど素敵な時間はない、ということに気づくんですね。子育てほど、自分を成長させてくれるこんな素敵な機会は無いということですよ。そして、この子どもと共に成長できる人生を歩むこと。この素晴らしさが、どれだけのものなのかということ、皆さんにお持ち帰りいただきたいと思

め達」になっていただくというところで、最初に、ほめるとという言葉の意味、概念を共有しておきたいと思っています。

「ほめる達人」になる

「ほめ達」というのは「ほめる達人」の略です。これは子育てでも使えますし日常でもすごく使えます。また自分の心が整います。自分の心が整っていく事によって周りの人との関係性が変わってきます。

一番大切なコミュニケーションは何かと言うと自分と一対一、自分と自分とのコミュニケーションなんです。皆さんが自分の心が乱されていくと、周りの人との関係性が変わってきます。皆さんに「ほ

あ、私も直すとこ何処にもないんや、OK OK、と思われたら大変。大体、ほめることって甘やかすことじゃないの？ほめられて育った人間って、弱いよね。というふうに、ほめるっていう言葉を聞いて、プラスよりマイナス、ネガティブな印象を持つ方が多いかもわかりません。

ただ、「ほめ達」が言うほめるっていうのは、おだてたりおべんちゃら言ったり、相手の耳触りのいいことを言うっていうことではありません。「ほめ達」の言うほめるとは、目の前の人、物、起きる出来事の三つの価値を発見して



伝える。何をするんですか？って言う価値を発見して伝えることなんです。

人の価値を発見して伝える

先ず一つ目。人の価値を発見して伝える。これは今現在皆さんが持ちのほめるっていう言葉の意味概念が一番近いもの。人のいいところを見つけて、それを相手に伝えていくってことです。例えば、あの人は他人に対して常にとげとげしいことを言う。なかなか周りの人が近づけない気難しい。あの人が難しい。付き合いたい人やね。そんな考え方になってる人が実

は少なくない。そうじゃないかなと思って、こちらから誠心誠意心を開いてつき合っていくと、ある日突然その人の心がほんの少しだけ開いて、本当にやさしくて、思いやりがあつて、周りの人の気持ちのすごくよくわかる。そんなやさしいきれいな気持ちでドワーッと出てきた。この人って、本当はこういう人だったんだ。そういうところまで見つけて引き出してあげれる人。そういう人が「ほめ達」です。

物の価値を発見して伝える

そして二つ目。物の価値を発見して伝える。どういうことかと言うと、どれだけ価値のあるものでも、その価値が相手に伝わらなければ、価値は存在しないと同じ事なのです。あるいはそのもの自身が存在しないと一緒なんです。ですから皆さんに於いては、学ぶことの意味。子どもが学校で教科を学ぶ、それでどんなことが出来るのか、学ぶこと、あるいは集中力を高める子どもの時代に、

も諦めます。

話は前向きに聞く

め脳になると今まで見えなかったものが、見えるようになる。感謝することや有り難いといったことが見えるようになる。二つ目は、今まで湧かなかったアイデア、プラスのアイデアがでてきます。今日は、皆さんにこれを体験していただきます。

人間の脳というのは、究極のエコ装置です。直ぐに省エネモードで運転します。ほめるっていうことは、怠け癖のある脳を、楽しく使ってあげることなんです。すると、常に脳トレしているようなものです。物事の見え方や、ピンチをチャンスに転換することが出来るようになってきます。

子どもに成長して欲しいならば、親や大人が成長する姿を見せるしかないんです。年齢関係ないです。人間はいくつになっても成長することが出来るんです。成長し、変化して素晴らしい姿になれるんです。でも、もう自分はこんなもんだ、年取ってるし、と思った瞬間、子どもは成長を止めます。大人が成長を諦めた瞬間、子ども

一つの事に打ち込んで、それはスポーツでもあるいは芸術でもいい、あるいは勉強でもいい。自分の好きな科目を見つけてそこで集中力をぐつと高めいくということは、家を建てる土台を広くする。土台が広くなればなるほどそこに建つ建物の選択肢が増えるんです。また自分で環境を選ぶことが出来るんです。というように、学ぶことの意味とかを独自の切り口で伝えてあげる。そういうことが出来る人が「ほめ達」です。

出来事の価値を発見して伝える

そして三つ目。起きる出来事の価値を発見して伝える。これは普通だったなら、ウワーどうしよう！ピンチや！困ったな、っていう状況にある時に、いや、ちょっと待てよ。ここで起きてる問題は大きな問題で、またタイミングが悪い。でもこの程度の問題でよかったのかも知れない。このタイミングで良かったかもしれんよ。これをもっと遅れてたら、あるいは誰

かが怪我してたら、命にかかわるようになってたらそれこそ取り返しがつかなかった。今ここで、この問題にキッチリ取組んで解決して、そしてみんなで知恵を集めて二度と起きないように、そんな仕組みを今作り上げることが出来たとすれば、このピンチは長い目で見たらチャンスかもしれない。

こんな伝え方が出来る人が「ほめ達」なんです。ね。「ほめ達」の価値を発見して伝えるっていう能力は、あらゆる人を導く立場の人、人を育てる人、親、リーダー、先生などすべての人に必要な能力だと思うのですが、皆さんはどうでしょうか。

見方を変えると見えるものが出てくる

このほめる価値を発見して伝えることをずーっとやっていただくと、皆さんの脳が「ほめ脳」に変わります。「ほめ脳」に変わると「脳に力」が出ます。そうするとどうなるか、二つあります。ほ

立場を置き換えて聞く

二つ目は、自分に直接関係のある話は聞きましよう。そうでなかったら関係ないよね、と。これはお仕事されている方はそうかもしれないけれど、そうでない専業主婦は関係ないよね。と言うのはなくて、一見、自分とは全然違う立場、全然違う地域の中に自分に置き換えたらどうなるか。という、そんな話の聞き方をしてみると、今まで思ってもみなかった、あるいは自分発のコロ玉のようなアイデアが浮かびます。コロ玉つまりコロンプスの卵のような発想がでてきます。

禁句…言葉の3D

そして三つ目。これは言葉の3Dを言わない。あるいは言葉の3Dを頭に浮かべるのは止める。言葉の3Dとは、「でも」「だって」「どうせ」。この三つを反射的に言ったり直ぐに頭に浮かべるのをやめ

ましょう。「でもね、うちの子では」「だってこの地域では」「どうせダメから」。私は4Dですという人もいます。「でも」「だって」「どうせ」にもう一つ「できない」。これみんなマイナス、ネガティブの言葉ですね。

周りの方にいい事をする

ここで皆さんに三つのお願いをします。これは皆さんと皆さんの身近な人との活性化に、すごく使える話なんです。これも私が教えてもらった話なんです。ある講演会に行ったとき、司会をして下さった女性のアナウンサーの方からでした。

一つ目、その方はこう仰いました。「みなさん、拍手をしてください。全力で。」全力でとどれくらい？指の骨が折れるほど。

皆さんの中で、今日が誕生日だって言う方いらっしゃいますか？…。では昨日か明日が誕生日だって言う方、手を振ってください。一、二、あ、四名いらっしゃ

いますか。ちょっとお立ちください。では皆さん、この方たちへ、お誕生日のお祝いの拍手をしましょう。指が折れるくらいの全力で。全力の拍手をお願いします。どうぞ！（場内一斉に拍手）。有難うございました。すばらしい、全力の拍手！はい有難うございました。このお誕生日の人に全力でしていただいた拍手なんです、情けは人のためならずではなく、回りまわってわが身の幸せ。誰かのためにいい事をする、それは相手のためだけではなくて自分にもいいことがあるんです。

自分にもいい事がある

実は、皆さんの身体にも変化が起きています。手のひらって言うのは、数え切れないくらいのツボがあるんですね。今皆さん、全力で意識をして拍手をした。ジーンと温かくなっているように、皆さんは自分で自分のツボを刺激したんですね。それによって、特に前頭葉が活性化されます。前頭葉が

活性化されるとどんないいことがあるかと言うと、まずはプラスのアイデアが浮かびやすくなります。目の前の人に、非常にいい印象を持ちやすくなります。

拍手の習慣は非常にいいですが、拍手と同じ効果をもたらすものがあります。それは握手です。自分以外の人と手と手を握り合うことによって、全力拍手と一緒に目の前の人にいい印象を持ちプラスのアイデアが浮かびやすくなって、握手をしている人によい印象を持ちやすくなります。ですから会議やミーティングなど初めに握手をしていくのは非常にいい習慣です。脳を活性化させることにもなります。子どもたちにも、何かを始める時、握手をするのはいいと思います。今日の講演の一番最初に握手をお願いしたのは、そのためだったんです。

うなずくと体に好い

三つのお願いの二つ目です。その方はこう仰いました。「み

なさん、うなずいてください、全力で」。全力ってどれ位か？アゴが外れるくらい。うなずくと体にいいっていうのは、医学的に根拠があるそうです。首を縦に振ると、免疫力が上がるそうです。免疫力が上がると、まずは病気になる難い。そしてアンチエイジング。美容の先生がおっしゃってました、恰好良くなるそうです。

笑顔は脳を活性化させる

三つ目です。皆さん、笑顔で聞いてください。笑顔が脳にいいということは、脳科学的に証明されています。脳科学者の茂木健一郎さんに教えていただいたのですが、脳が一番いい状態で動いている時というのは、例えば自分が根拠のない自信で満ち溢れている時だそうです。でも根拠のない自信に出て来いといっても出て来ません。どうしたらいいか、有り難いことにこの身体の中にはパソコンで言うキーボードのようなもの



があつて、ある入力をするとなんか全力で動き出す。では身体の中のキーボードは何かというと、顔の表情筋なんです。そして笑顔の入力が脳を全力で動かしてくれるのだそうです。本物笑顔でも作り笑顔でも脳は全力で動いてくれるそうです。

ということで、皆さんに脳の活性化の体験をしていただきたいと思ひます。会場内のすべての皆さんの左右前後、近くの方でそれぞれ、ABCの役を決めてください。

そこでAさんになった人は、全力で笑顔を作ってください、十五秒間です。BさんとCさんになった方は、Aさんをやさしく見つめて、十五秒間、しっかり応援をしてあげてください。はい、役割が決まりました。場内一斉にスタートして

ます。ヨーイ、スタート！

はい、OKです。ではAさんに質問します。目の前のBさんCさんの表情は、どういう表情だったでしょう。「笑顔、笑ってた、やさしい表情」。そうですか、私はAさんに全力で笑顔を十五秒間してくださいと言って、BさんCさんには言っていないですね。ところがAさんによると目の前のBさんCさんは笑顔だった。私も皆さんの笑顔を見て笑顔になりましたので、この会場全ての人が笑顔になった。すべての脳が活性化された状態になった、というわけです。

笑顔が相手の笑顔を引き出す

やはり皆さん日常のこの人生の中で、笑顔と一杯出会う人生がいいですね。子どもさんも勉強するのに、脳が一番いい状態で取組んでほしい。じゃあ笑顔と出会う、目の前の人の脳を活性化させるにはどうしたらいいか。自分の笑顔が相手の笑顔を引き出す、っていう



はい、有難うございます。これは有名なだまし絵で、この絵の

ことなんです。どれくらいの笑顔かという、全力の笑顔です。ぜひ皆さんも、目の前の人に笑顔のスイッチを入れるつもりで、笑顔をしてください。すると最高の笑顔と出会えるんです。子どもさんに勉強してもらおうと思ったら「勉強しなさい！」って言うよりも、笑顔で「勉強しなさい」とか「うん」とかいいんです。「この女性の表情は？」

皆さんの脳が活性化された状態で、問題を出します。「この女性の表情は？」という問題です。先程のAさんBさんCさんで、話し合ってみてください。よろしくお願いします。

これは鼻ですよ、これがアゴですよ、前髪ですと言われると若い女性の顔が見えてくる。

見えるものと、見えないもの

これと同じことを私たちは日常でやっているんです。私たちが見

ているものは、現実であることに間違いはないんです。でも、実は私達が見ているものは現実のうちのほんの一部であつて、すべてではないんです。ところが私たちは、現実を見ているので、見えなくて存在するものがあるとは思わないんです。見えていないものは存在しないと思ひ込んでしまふ。ですから、皆さんの子どもさんにも「うちの子は才能が無い」とか、「能力が無い」と思ひ込んでいることではないでしょうか。実は、だまし絵のように、隠れた才能や能力、隠れた資質や可能性というものが、いっぱいあるんです。それを、思い込みによって見えなくしてしまっている、ということなんです。そしてどちらを先に見つけるかという、実は、私たちはマイナス、欠点を先に見つけてしまふ、欠点が目についてしまひます。そういう本能があります。これは、どういうことなのでしょう。

だまし絵：出典 trickartseesaneet

— 続く —

実践紹介2 中津川市立福岡中学校『ネット利用のことを話題にして話そう』

ポイント ○情報モラルに関する講話とグループ交流（サロン型）の家庭教育学級

福岡中学校では、保護者同士の「子育てのネットワークづくり」をねらいとして家庭教育学級を開催しています。今回は、情報モラルに関する講話「ネット利用に関する家庭のルールづくり」を聞いた後に、保護者同士の交流の場を取り入れて実施されました。

講話(40分)



グループ交流(20分)



その場で講師に質問し、
答えてもらえる。



小グループだと質問や
意見が出しやすい。

●参加者の感想

- ・子どもより大人の方が分からないことが多い。全て知っておくというのは難しいが、子どもが困ったらすぐに相談できる親にならなければと思った。
- ・ゲームにはまってしまいう気持ちは分かるので、やっぱりルール作りが大切だ。
- ・与えっぱなしはやめないといけない。親がみんなで情報を共有して、子どもをとりまく環境をよくしていく必要があると感じた。
- ・母親が買わないつもりでいたのに、父親が買い与えてしまったという家庭もあるので、両親で研修会に参加して、子どものネット環境やトラブルなどの現状を知って欲しいと思う。

☆家庭教育プログラムを ご活用ください ☆

家庭教育プログラムとは、身近な出来事をもとに、参加者同士が少人数のグループで話し合い、家庭教育について学び合うための手引きです。子どもの発達段階や参加者のニーズに応じた内容を取り上げることができるよう、乳幼児期編、小・中学校編ともに二十のプログラムを作成しました。

このプログラムには、基本的な生活習慣、思いやり、命の大切さ、社会のルールなど、家庭教育の重要なテーマについて交流ができるよう、ワークシートや家庭教育学級の進行案、資料を掲載しています。和やかな雰囲気での交流ができますように、アイスブレイクも紹介しています。ぜひ、家庭教育学級や学級懇談会等でご活用ください。

○家庭で実践した内容を交流し体験を共有

家庭教育学級は、子育てやしつけについて学ぶ場、子育ての悩みを交流し合う場、自らを振り返る場です。家庭教育学級には、学校行事参加型・体験活動参加型・講演会型・子育てサロン型・在宅取組型の5つの学習形態があります。その型をうまく組み合わせることで、学びが広がり、深まります。今回紹介した2つの家庭教育学級は、どちらも子育てサロン型を取り入れています。自分から話すことで、自主的に学ぶ姿勢が生まれ、より学びが深まります。子育てに奮闘する保護者同士で話し合い、お互いの体験を共有することによって、お互いのよさを学び、明日からの家庭教育実践に活かすことができます。家庭教育学級でお互いに学び合います。

編集後記

家庭教育学級は、子育てやしつけについて学ぶ場、子育ての悩みを交流し合う場、自らを振り返る場です。家庭教育学級には、学校行事参加型・体験活動参加型・講演会型・子育てサロン型・在宅取組型の5つの学習形態があります。その型をうまく組み合わせることで、学びが広がり、深まります。今回紹介した2つの家庭教育学級は、どちらも子育てサロン型を取り入れています。自分から話すことで、自主的に学ぶ姿勢が生まれ、より学びが深まります。子育てに奮闘する保護者同士で話し合い、お互いの体験を共有することによって、お互いのよさを学び、明日からの家庭教育実践に活かすことができます。家庭教育学級でお互いに学び合います。

お気軽にご相談ください！

各教育事務所には、家庭教育推進専門職がいます。家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

飛騨教育事務所	0577331111	(424)
東濃教育事務所	0577331111	(437)
可茂教育事務所	0577331111	(445)
美濃教育事務所	0577331111	(437)
西濃教育事務所	0577331111	(441)
岐阜教育事務所	0577331111	(411)
岐阜教育事務所	0577331111	(411)

(直通)

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！ぜひご覧ください！！

- 一掲載内容一
- ・平成23～26年度家庭教育学級の実践
 - ・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
 - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ（乳幼児期編）」
 - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ（小・中学校編）」

岐阜県 家庭教育学級

検索

実践紹介1 可児市立広見小学校「開級式&子育てサロン」

ポイント ○家庭教育プログラム「わが家の約束」を活用した子育てサロン型の家庭教育学級

広見小学校では、保護者同士が交流し、自分の家庭を振り返るとともに情報収集をすることをねらいとして、開級式後に家庭教育プログラムを活用した子育てサロン型を取り入れた家庭教育学級が行われました。さらに、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動を実践しました。

●参加者の感想

家庭教育プログラム「わが家の約束」

- ・約束について考える機会となった。他の人の話を聞いて、思いはみんな同じだとわかって励みになった。
- ・約束は親も守る。子どもとの約束は親の押し付けでなく、よく話し合って決めることが大切だと分かった。

「話そう！語ろう！わが家の約束」運動を実践して

- ・決めた約束について、できたかどうか毎日親子で話す時間ができてよかった。子どもも自分で決めた約束を意識して取り組もうとする姿が見られた。
- ・「あれをしなさい、これをしなさい」と親から一方的に押し付けるより、話し合って決めた約束は守れることが分かり、褒める回数が増えた。



<話し合って決めた約束>

- ・家に帰ったら、すぐに宿題をする。
 - ・お母さんから言われる前に、自分から宿題をする。
 - ・友達と遊ぶ前に宿題を全部終わらせる。
- このことを、約束として決め、子どもが自分の言葉で書きました。

子どもにさせたいことがあると、つい「〇〇しなさい。」と言ってしまいがちですね。しかし、この取組みでは、話し合っ一緒に決めた約束だから、自分から進んで行動することができるかどうか見守ろうとする保護者の気持ちが伝わってきます。約束を決める時も実践中も親子の会話が増え、お互いの気持ちが通じ合うのを感じたのではないのでしょうか。子どもにとっては褒めてもらえる喜び、親にとってはわが子の頑張りをを感じる喜びがあり、親も子も笑顔になれるよい取組みになっています。

家の人と話し合っ自分で決めた約束だから守ろうとする子どもの気持ちが伝わってきます。また、自分の頑張りを花丸で示すなど、自分からできた喜びを感じていることが分かります。



1 学校の特徴

岐阜県立郡上特別支援学校は、平成十七年四月、郡上市大和町栗巣に、知的障がいと肢体不自由の児童生徒を対象とする、知・肢併置の養護学校として、児童生徒数八名で開校しました。その後、児童生徒数の増加により、平成二十一年に高等部のみ二十キロ以上離れた郡上市八幡町那比に移転し、二校舎体制での運営を続け、本年七月十一日に創立十周年記念式典を挙行了しました。

校訓に「あかるく なかよく たくましく」を掲げ、「一人一人が生きて光り輝く教育」を目標に、魅力ある学校・信頼される学校・開かれた学校を目指し、創意ある教育を実践しています。

2 各部の取組み

○小・中学部

小学部では、①遊びや運動に取組

み、生活リズムを整え、丈夫な体を作る②身の回りのことへの関心を引き出し、できることが増えるようにする③友達と一緒に活動し、自分の思いを伝え、周りの人と関わる力を育てる、の三つを、中学部では、①仲間意識を育て、基礎的な体力の向上を図る②身の回りのことが自分でできる力を育てる③自分の意思をはっきりと表現できる力を育てる、の三つを指導の重点にしています。

・豊かな自然の中で「畑づくり」

学校前の畑を借りてサツマイモやトマト、なすやスイカなどのいろいろな作物を作っています。土に親しみながら毎日の水やりや育つ様子を観察したり、自分たちが作った野菜を料理したりして楽しみます。秋には、畑で採れたサツマイモを地域の方がやきいもにしてくださいたり、PTA活動の豚汁の材料にしたりしています。

そば作りは、毎年行う本校の伝統的行事の一つです。そば撒きから収穫まで、地域の方のお手伝いをいた

だきながら、子どもたちも教員も一緒に汗を流し、お楽しみ「そば打ち大会」の成功を目指します。年々、上手になる子どもたちの姿を地域の方にも楽しみにしていただいています。



・いろいろな紙を作ろう！作業学習！
中学部の作業学習では、牛乳パックと畑で育てた「ケナフ」を入れた、紙すきを行っています。今年の十周年記念式典では、生徒たちの手で「感謝状」を制作、お世話になった地

見つけてゆつくり成長していってくれば、幸せに思います。

（小学部 保護者）

○高等部

高等部では、①生徒一人一人のニーズに応じた支援を行う②自己理解を促し働く力を育成する③地域住民や地域の小中学校、高等学校と交流し、地域資源を活かす、の三つを主な指導の重点としています。

・働く力を身に付ける地域と連携した取組み

卒業後の就労に向け、職業に関する



私達親子が、郡上特別支援学校にお世話になって三年目を迎えています。

この学校で、作業 現場実習を通して、体調管理の大切さ・社会人としてのマナー等、身をもって学習させてもらっているのと同時に、わが子がつ特性を明らかにし、本人と親がそれと向き合い理解する場を設けて頂いたことで、今があるのだと実感しています。

入学当初、後ろ向きな言動が多かったわが子でしたが、年々各行事に積極的に参加出来るようになって

おり、自己肯定感もきちんと味わえていることをうれしく思っています。

郡上特支は、今ではわが子に欠かせない場所です。諸先生方のご指導をいただきながら、残された学校生活も親子で頑張りたいです。

（高等部 保護者）

3 PTA活動の紹介

本校のPTAは、執行部と三つの専門委員会で構成されており、全員がいずれかの委員会に所属して活動しています。

行事委員会では、清掃活動時に豚汁を作って配布したり、学校祭ではゲームコーナーの運営やカレー作りを行ったりしています。豚汁やカレーの材料は学校の畑で採れたものや地域の方、各ご家庭から寄付をしていただき、三百食以上作ります。

ウィークエンド活動委員会では、土曜日の余暇活動を計画し、校舎ごとで一回と合同で一回の計三回実施しています。中でも合同で行われるボウリング大会は人気で、小中高の児童生徒と保護者がみんなで楽しさを共有できる場となっています。

研修委員会では、年四回行われる研修会の運営のほか、PTA日より

域の方々にお渡ししました。三月には、卒業証書を作ります。役割を分担し、自分たちの仕事に自信を持って取り組む力をつけることで、働く力を育んでいきます。

幼い頃は多動がひどく、自分の気持ちもうまく伝えられなかった自閉症の息子。よく癇癪をおこし、親子で試行錯誤の毎日。は、将来に不安しかありませんでした。

そんな息子も5年生になり、少しずつ落ち着いて行動できるようになってきました。言葉はまだ話せませんが、絵カードで予定に見通しをもたせるなど、個に合った支援のおかげで興味の幅も広がり、意欲的に学習しているようです。日々子供たちに寄り添い続けてくださる先生方に感謝しています。

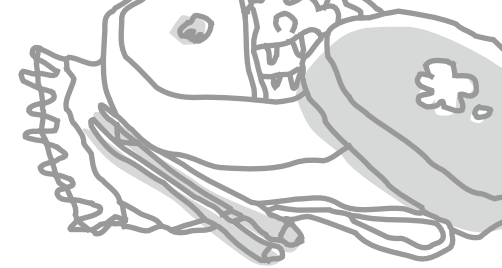
人よりゆつくりマイペースに成長していく息子は、これまで幼稚園、学校、ことばの教室、地域の方々など多くの方に温かく見守っていただきました。これからもこの郡上で、息子なりに好きな事、得意な事を



の作成やベルマークの集計なども行っています。今年六月に行われた研修会では、保護者からの要望が多かったテーマから、「みんなが元気になれる研修会」をモットーに実施しました。研修会後には講師の先生も一緒に懇親会を行い、情報交換をしたり悩みを相談したりと、笑顔あふれる研修会になりました。

今後も自然あふれる美しい郡上で育った子供たちが、卒業後も郡上で安心して生活できるよう、地域とのつながりを大切にし、地域に感謝しながら活動を続けていきたいと思っています。

お弁当の日



岐阜市立加納中学校PTA

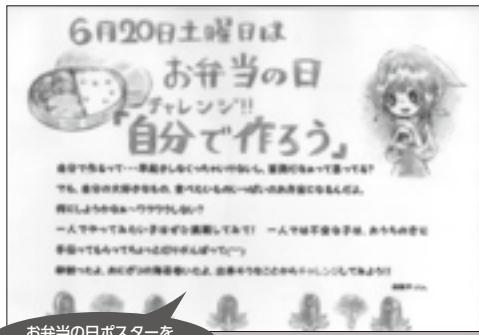
お弁当作りを通して、自ら生きていく力を養い
家族との「関わりの時間」をもとう！

昨年度に引き続き「お弁当の日」を迎えました。本校の「お弁当の日」は、①全て一人で挑戦する、②メニューと一緒に考えて作れる物を作る、③出来合いの物をうまく利用する、④作るのは任せて詰めることだけはする等、子どもたちの力量に応じて自由に選択しています。ただ、昨年度と異なるのは、地域の方のご好意により「お弁当の日」のポスターを作っていただき、事前に掲示することで、「チャレンジ！自分で作ろう」とアピールができたことです。また、最近流行の「おにぎらず」のレシピを配付し、難しく考えないでやってみよう！と取組みやすい環境を意識しました。その結果として、全てを自分で作り達成感を味わった子や、レシピをそのまま再現して持ってきてくれた子たちの声が多く聞かれ、事前の取組みの大切さを実感しました。

多くの生徒は母親のサポートによりお弁当を完成させましたが、中には父親・祖父・祖母・兄弟と一緒に「関わりの時間」をもてた子もいました。「お母さんは、自分で作る弁当の時は、好きなものばかり入れたわ」、「お父さんの子どもの時のおにぎりは大きかったな！」等、大人が自分の体験や記憶を子どもに語る「関わりの時間」をもつことも「お弁当の日」の大切な目的なのだと思います。



お弁当の日パネル展
(主催「弁当の日」応援団・ぎふ)
へ出展しました。



お弁当の日ポスターを
作っていただきました



お弁当の日レシピです



いただきます

ごちそうさま

成果と課題

実施後のアンケートは、「達成感を得た」、「親の大変さに感謝します」、「親子で楽しかった」など、概ね「お弁当の日」を継続してほしいという意向の意見でした。約半数の生徒が事前に配付したレシピを参考にしてくれていました。さらには、「男の子にもできるメニューを紹介してほしい」や「卵焼きの上手な焼き方を教えてほしい」等の要望もあり、来年度へ引き継いでいきたいと思えます。学年毎の特徴として、一年生はキャラ弁に挑戦する子が多く、「人生で初めて料理を作ったのが自分の弁当だった」という子もいました。二年生では親子で「会話」という「関わりの時間」をもてたという声が聞かれました。三年生は、学校の調理実習を生かしたメニュー作りをしたり、汁の出ないおかずを考えたたりすることができおり、本校の教育目標「自学・自治・自愛」を実践しているのだと感じました。

ただ、様々な家庭の事情により、「お弁当の日」を良く思わない子どもがいるという現実があります。そのような子どもたちが楽しみにできる「お弁当の日」とはどんなものでしょう。例えば、一人一品ずつ持ち寄ってお弁当にするとか、地域の方と一緒に作る機会をもつなど、様々な「関わりの時間」を生み出すことができます。実際の運営を考えると多くの準備が必要になりますが、すべての子どもたちのためにこうした取組みを頑張ってみて良いのではないのでしょうか。

食べることは生きること。そして、美味しくいただき、大事な人とその時間を共有することはとても幸せなことです。私たちは無意識のうちに「人生で一番幸せな、子どもたちとの時間」を過ごしています。時にはそのことを思い出し、子どものことをゆつたりと考える機会になればと思います。

今後も家族との「関わりの時間」を作っていきたいと考えております。

pleasure
イラスト&クイズ

7人から
いつも死生
と、重宝を
もちてい
ます。ご
めいばてう

Smile

P.N. くまみ (岐阜市)

KAMOPIRE DEPT.

救急車

P.N. プーさん (美濃加茂市)

QUESTION 1

ふけばふくほど、汚れて
いくものは？

出題・上田英気 (岐阜市)
〈答えは41ページ〉

school infirmary

保健室ノート

●大垣市立東小学校養護教諭
高木 綾子

健康はよい習慣づくりから

となります。よい習慣になるか、悪い習慣になるかは、本人の気持ち次第です。

習慣って簡単に言っけれど：

「高木先生おはようございます」と元気に挨拶をして保健室前を通っていく子どもたち。

名前を呼ばれ、とびきりの笑顔で挨拶されて「先生元気ですか？」と聞かれたら、本当はとても疲れていて気持ちもブルーなのに、「はい。元気です」と思わず答えてしまいます。そして、本当に元気になります。今日も一日頑張ろう！と思えるから不思議なものです。こうして毎日子どもたちからパワーをもらいながら勤務しています。本来、私がそう子どもたちに感じてもらえたらいいなと思っていることです。口先だけの挨拶なら人の心は動きません。心の動く挨拶は、本物です。挨拶も繰り返し行うことで習慣

半・高学年は十時までに寝るよう指導しています。

健康生活の基盤は家庭です。

健康教育は、学校だけの指導で定着するものではなく、ご家庭の協力が必要です。「早寝・早起き・朝ごはん」というキャッチフレーズは、かなり浸透しています。そして、毎年生活リズムの点検や歯磨きの点検などにご協力をいただき、少しずつ良い習慣が身についてきているのが子どもの姿からわかります。

点検や保健日よりなどをきっかけに、少しでも良い習慣づくりを意識していただけなら、子どもたちの健康習慣の基盤

さて、健康教育を行う上で、習慣という言葉がよく使われます。特に基本的生活習慣については、毎年繰り返し指導します。知識として理解していても行動できなければ、習慣とまではいかないからです。習慣化しなければ健康な生活につながりません。

例えば、食べたらず磨きをするという良いことは、一年生でも知っています。歯磨きをすれば、むし歯になりにくいことも知っています。家庭でも「歯磨きしなさい」と話していられしやと思います。しかし、このことができない子もいるのです。食べたらず磨き習慣ができれば、口の中は健康になるでしょう。しかし、磨かないことが習慣になれば、様々な疾患が出てきます。

がより良いものになると思います。健康習慣は一生続くものです。その基盤を今作っているのです。子どもの頃に身についた習慣は、大人になっても身についているものです。

指導方法は変わるかもしれませんが、中学生や高校生にも小学生と同じことを繰り返し指導していると聞いたことがあります。健康教育の基盤は一緒なのです。

とはいえ、家庭状況はひとりひとり違います。ぜひ気軽に保健室へお立ち寄りいただき、お子様のお話をお聞かせください。個人に寄り添ってよい習慣づくりのお手伝いをしていきたいと思っています。



〈生活をふり返る児童〉

朝食や就寝時刻についても気になる傾向があります。朝食では、時間がない、食欲がない、食べるものがないなどの理由で、簡単に済ませる子が増えています。体調不良を訴えて保健室に来室する子に朝食内容を聞くと、主食のみ、主食と簡単な副菜のみ、飲み物のみで済ませている場合が多いのです。朝食を食べないことが、習慣になっている子もいます。

就寝時刻では、「おやすみなさい」と言った後、布団の中で夜中までゲームをやっている子がいました。また、大型スパーで九時過ぎに小さな子を見かけることもよくあります。大人の生活リズムに合わせて生活せざるを得ない場合もありますが、できるだけ子どもの生活リズムに合わせていただけるとよいと思います。「寝る子は育つ」と昔から言われていますが、成長ホルモンが分泌されることで、科学的にも立証されています。本校では、低学年は九時・中学年は九時

私が教師を目指すきっかけとなった先生

坂祝町立坂祝中学校 教頭

白田 伸幸

今日までに出会った先生は、数え切れないほどたくさんいます。小学校五年生の頃、雑巾で私の頬を張り、身勝手を注意してくださった先生。高校三年間、ずっと私の名前を間違えて呼び続けた先生。初任校で悩みを抱えていると、「大概：大概いいぞ」と、励ましてくださった先輩の先生。生徒指導で苦勞した学校で、一緒に困難を乗り越え、無事に生徒を卒業させた同僚の先生。いろいろな先生に支えていただき、今日を迎えています。

たくさんの先生と出会ってきましたが、私が教師としてこの道を歩むきっかけとなった先生が、中学校で一・三年を担当してくださった先生です。

この担任の先生は、初任者として中学校に赴任された女性の先生でした。中学校の中で一番若く、明るくて元気な先生が大好きでした。いつも私たちの会話の中に入り、たわいもない話に付き合ってくださいました。

そんな先生の生き方を見て、私は教師になりたいと思いました。

私が小さな頃から父母は、将来は安定した職業に就くため、公務員を目指しなさいと言い続けていました。父は林業に携わり、天候に収入が左右される仕事に就いていました。それが故に、私に公務員になることを勧めていたのだと思います。公務員といっても、まだ小さかった頃の私には、学校の先生ぐらいしか分かりませんでした。ただ漠然と、学校の先生になるんだと思い続けていました。そんな漠然とした夢を「教師になるんだ！」という強い思いに変えてくださったのが、中学校三年生のときのその先生の生き方でした。

小学校六年生の頃から、私の母は入退院を繰り返していました。そして、中学校三年生の秋、母

は他界しました。母の死はある程度覚悟できていたとはいえ、さすがに現実となると悲しみは深いものでした。きっと、学校でも暗い表情で過ごしていたのだと思います。そんなとき、必ずその先生は「何か困ったことはないか。私にできることなら、遠慮せずに言っていていいよ。」と、私を気遣い、励ましの声をかけてくださいました。その頃、父親は単身で泊まり込みの仕事に出かけ、私と兄の二人だけの生活が始まりました。すると「今日、おかずを作りすぎたので持ってきたよ。」と夕食を届けてくださいました。私と兄の二人分のおかずにしては、品数と量が多く、明らかに作りすぎたのではないと、すぐに分かりました。そんな先生の心遣いに感謝しながら、余すことなくおいしくいただきました。

中学校三年生の秋と言えば、そろそろ進路決定をする時期となります。父親は泊まり込みの仕事で家にはいません。兄は、自分の進路は自分で決めるべきものだと言い、一人自分の進路どうすればよいか迷っていました。そんな迷いを、生活記録ノートに綴ると、「伸幸は伸幸で、誰でもないんだから。自分を信じて進路を決めなさい。ただし、学費や汽車の費用もかかることをよく考えて、進路を決めなさい。」と朱書きのコメントを書き込んでくださいました。この一言で、私は高校選択を決断することができました。

また、大学生の頃、所属していたバレーボール部の合宿で地元の旅館に泊まりました。たまたま、先輩の練習着を洗濯していたところにその先生が通りかかりました。すると、「伸幸だね。」と声をかけてくださいました。もう何年も会っていないのに、覚えていてくださったんだと感激しました。

この先生との出会いがなかったら、今は違った職業に就いていたかもしれません。先生を思い出すたびに感謝の気持ちでいっぱいになります。

その先生も今年の三月で退職を迎えました。先生、お疲れ様でした、そしてありがとうございます。ありがとうございました。



P.N. あかし (本巢市)



P.N. オキ (郡上市)

QUESTION-2

野菜の中で、自分は別だ
と思っている野菜は？



出題・大平修也 (海津市)

〈答えは41ページ〉



◀還暦祝い (新横浜)

子ありて、親となる

中津川市立西小学校長 鈴木 俊二

三人の子どもは社会人となり、夫婦の会話は専ら「子育て」からそれぞれの「新しい家族づくり」になってきました。子どもが大学を出て就職するまでは、夫婦共働きのため自分たちで子育てした思いが薄く、この原稿依頼に大変戸惑いました。

育てられたようにしか、育てられない

末の子（次女）が小学二年生まで、四世代八人家族でした。休日以外は、両親と祖母に世話になっていました。父と祖母はすでに他界し、東京で働く長男と次女は帰省すると、玄関から仏間に直行します。仏壇に手を合わせ、それから「ただいま」と居間に入ってきます。その姿を見て、夫婦だけで子育てしていたら、この姿はあったのだろうかと思いました。

私も同様な環境で育ちました。両親は小さな小売店を経営していて朝は早く、夜は遅いため家庭生活の大半は祖父母との暮らしでした。昼には厳しい明治生まれの祖父母もやはり孫は可愛かったようで、食事の献立に多少不満はあったものの、愛情たっぷりに育ててもらいました。私の両親は、祖父母を家では「一番偉い人」と、日頃から言動で私に伝えていました。これは私たち夫婦の子育ての参考になりました。やはり、「育てられたようにしか、育てられない」ということでしょうか。

子は親の師

幼児期の子育ては祖父母、曾祖母に助けてもらっ

小学生のスポーツ教室は保護者の協力なくしては成り立ちません。そのため中学、高校生の長女にはあまり関わってあげられませんでした。長男が中学生になると、休日の部活動を支援する保護者会を立ち上げ、二代目保護者会長を務めると共に外部指導者として部活顧問の先生をサポートしました。

次女が中学校に入学したら、その役を降りようと思いました。しかし、顧問の先生の強い依頼もあって、外部指導者を続けることになりました。保護者が指導者になると、当人は公平に接しているつもりでも、子どもの中に、または保護者の中に不平不満がくすぶってきます。長男の時も若干感じましたが、次女の時は露骨な言動が目立ち、二年生から三年生の中体連の大会が終わるまで、親子ともに辛い毎日でした。その分、親子そして夫婦の絆が深まった気がします。

こんなこともあって、テニスを嫌いになってしまったのではないかと心配していました。昨年の五

ていましたが、思春期に入ると、やはり親の出番です。職業柄、懇談会などで保護者に「思春期は子どもにとって、自立のチャンスですよ。」と話しつつも、わが家ではそんなに物分りのよい親にはなれず、当然いろいろなことで親子の対立がありました。

その中で、大いに反省させられたことがあります。教員の性か、私自身の性分なのか、家に帰ってからも親というより教師として、子どもたちに捉えられていたようです。とくに、長男から「お父さんは、先生みたいなことを言う」と反抗されて、どきっとしました。その時の長男の拳の痕が、今も洗面所の壁面に残っています。私にとって都合の悪いことなのであまり覚えていませんが、それ以来お説教じみたことを言わないように努めています。子どもから教えられた一つです。子が成長するとともに、親もなっていくのだということを実感しています。「子は親の師」です。

テニスを通じて

親にとっても、子ども自身にとっても難しい思春期に、共通した話題があったことは救いでした。長女は小学五、六年生の時、友達の話でバスケットボールを習っていました。中学校でも続けるものと思っていたので、ソフトテニスを始めたのは意外でした。私としては自分もやっていたスポーツでしたので、内心とてもうれしかったことを覚えています。長女の影響か、長男、次女も小学生からソフトテニスを習い始めました。

月、長男、次女が帰省し三人の子どもが揃ったとき、「テニスしよう」ということになって、二日間連続して親子五人でテニスを楽しみました。運動不足の私の体は悲鳴を上げていましたが、心はとても清々しい気分でした。

親の喜び

今年のゴールデンウィークもテニスができるものと楽しみにしていましたが、その声が上がりません。後でわかったことですが、私の還暦祝いの相談で、それどころではなかったようです。

六月、私の誕生日の前夜に熱海で集合し、家族全員で還暦を祝ってくれました。翌日は長男の彼女（三人目の娘となる?!）も合流し、さらに楽しいランチタイムになりました。娘や息子が増えていくことを楽しみにしています。子どもたちのお陰で親の喜びを感じつつ、充実した人生に感謝しています。

ボランティアニュース

vol.6

クリーン・ザ・みの

美濃市立牧谷小学校PTA

『クリーン・ザ・みの』環境整備作業 地域ぐるみで町を美しくごみゼロをめざして

美濃市立美濃小学校PTA

美濃小学校では、毎年春と秋の二回「グリーン・ザ・みの」環境整備作業を行っています。これは、PTA会員と児童、地域の方々も一緒に作業をしています。



今年も五月に、たくさん児童やPTA会員、地域の方々に参加して作業を行いました。地域の道路や歩道だけでなく、線路沿いや川原等のごみ拾いや除草作業を行いました。また、地区の花壇や沿道の花壇の手入れや苗植えなども行いました。児童たちは、狭い場所に落ちているごみや草を進んで拾ったり、狭いところに腕を伸ばしてとったりしました。一方、子どもの力では抜けない草を中心に、大人が抜いていきました。みんなで協力して作業を行い、あつという間に町はきれいになりました。この活動を通して、地域ぐるみで協力することの素晴らしさと、「自分たちの住む地域は自分たちで美しくしていく」という気持ちを確認しあう機会となりました。



牧谷小学校がある美濃市では、毎年五月と十月に市内全域が清掃活動を行う「クリーン・ザ・美濃」を行っています。本年度も五月十七日（日）の朝、牧谷小学校の児童と保護者は、各地域で一時間ほど道路沿いの空き缶拾いやごみ拾いなど、清掃活動を熱心に行い、心地よい汗をかくことができました。 「去年よりごみが少なくなつてうれしいね。」「自分たちの地域を自分たちの手できれいにすることはよいことです。」「など、子どもたちや保護者の方々から地域を愛する多くの感想が学校に寄せられました。



また、清掃活動を通して、地域の方々と挨拶を交わしたり、声をかけていただいたりと、交流を深めることができました。 このように、子どもたちが保護者や地域の方々と一緒に活動する中で、より一層子どもたちが地域を愛する心が育まれることを切に願い、今後活動を継続していきたいと考えています。

地域清掃活動

フライン・ザ・みの」への参加

美濃市立大矢田小学校PTA

大矢田小学校では、子ども達が働くことの大切さや人の役に立つ喜びを感じてほしいという願いから、年に二回、地域清掃活動「フライン・ザ・みの」に親子で参加しています。

子ども達は先頭を歩いて積極的にごみを拾ってくれます。中には、「たばこの吸いながらこれほど多いとは思わなかった。」「どうしてこんな大きな空き缶や雑誌を捨てるのかな。」といった感想を言う子もいます。

この地域清掃活動を通して、子ども達がまず自分の生活習慣を見直し、環境美化の大切さを学び、清掃後に大人から「ご苦労様」と言われてもらうジュースを飲んで、周囲から感謝される喜びを感じてほしいものです。さらには、家族や学校の代表、小さくても地域の一人として働くことで、



よりよい人間関係を築き、豊かな心をもった大人に成長してほしいものです。

親子で爽やかな汗を流す、 夏休み親子奉仕活動

美濃市立美濃中学校PTA

美濃中学校のPTAでは、親子や地域の方とのふれあいを大切にしなが、奉仕の心を育むことをねらいに、毎年八月に親子奉仕活動を実施しています。

この活動は、大きく学校の環境整備活動と各地区の美化活動に分かれています。学校では、草刈りや側溝の掃除、グラウンドの草引き、通路のペンキ塗りなどに親子で汗を流しました。一方、各地区では、普段、子ども達も使っている駅や公園、通学路、集会所などのゴミ拾いや草引きを、町内の方たちも加わって一緒に活動しました。短い時間でしたが黙々と活動し、持ってきたゴミ袋がいっぱいになった地区もありました。

会員からは「親子で地域への奉仕活動ができてよかった。」「親子で協力して何かをすることも少ないので活動



できてよかった。」などの感想が寄せられました。親子で活動することや地域で活動することが減っている中、誰もが爽やかな気持ちになる素敵な時間を過ごすことができました。



過ぎ去りし王国の城
宮部みゆき 著
角川書店

御嵩町立御嵩小学校PTA会計
三輪 紫珠香



とあるラジオ放送にて宮部先生ご自身がゲスト出演されていた折に、新しく出版された本は「少年少女が絵の中に入り込んだ先で冒険をする。そんなお話

です。」と紹介されていました。もともとSFやファンタジー作品が好きな私は、その言葉に興味を持ち、書店に足を運びラジオ放送で聞いた宮部先生の新作の帯に書かれたあらすじを読んできました。すると「ネグレクト、スクールカースト、孤独や失意：」まるで冒険とは程遠い文言が並んでいます。そこでストーリーの真相を確かめてみたという思いが湧きあがり、この本を読み始めました。

物語は、早々と推薦入試で進学先が決まった中学三年生の少年が欧風の古城が描かれた絵を拾ったところから動き始めます。人々が寝静まる頃、少年は締め切った部屋に風が吹いていることに気付く。ふと絵を見ると古城と共に描かれた森の木々が風にさざめいていて思わず手を伸ばしました。すると絵の中のものに現実の世界のように目の前に景色として広がったのです。その後、試行錯誤を重ねて新たな絵を描き加えると、描き加えられた人や動物の絵に魂を乗り移らせることができるようになった少年は、精密に動き回れるようにと、美術部の少女に頼み込んで自分そっくりの人物を描き

入れてもらい、その古城のある風景の中に自分を存在させることに成功します。ただ、その世界は入ってきた人間のエネルギーを吸収してしまうことが分かり、長時間探索することができません。それでも何度目かの探索の後、二人より先に絵の秘密に気付いてこの世界に出入りしている大人の男性に出会い、情報交換をします。そして、お城には一人の幼い少女が幽閉されていることを知ることとなります。三人はどうにかその少女を救い出せないか、時に協力しあいつに意見を衝突させながら探っていきます。

こういった少年少女の冒険譚の中に、先に述べたようなネグレクトやスクールカーストといった問題が少しずつ織り込まれています。本当に倒すべき敵は何なのかを考えさせられる内容でした。そして、終盤に幽閉された幼い少女をどのようにして救ったのか、またこの冒険による成長を遂げて現実と戦っていく少年少女の生き様は、自分が困難に直面した時、それに打ち勝つヒントが織り込まれていると感心しました。ジュブナイル小説としても小学生高学年から読める

作品なので、ぜひ親子で読んで感想を言い合えたら素敵だと思います。

Someday
ちいさな あなたへ

文 アリス・マギー
絵 ビーター・レイノルズ
訳 ながわ ちひろ
主婦の友社

岐阜市立藍川北中学校PTA会長
吉田 美年子



◆本との出会い

「三十万部突破！全国のおかあさんが涙しています 母であることのすべてがつまった絵本」。この本との出会いは、本の帯に書かれてあった、このコ

ピーが目に入ったときでした。「絵本で三十万部とはどんな作品だろう」、「母であることのすべてがつまっている」という言葉に興味をもち、私の二人娘は、もう絵本を読んであげる年ではなかったけれど、見本として置かれていた本をついつい手に取り、立ち読みしました。読み終えた私は、その本に涙が落ちないように本棚に返したあと、娘達に一冊ずつ購入しました。ビニールのパッケージを開けると、小さなレターセットも入っていました。

◆感動のシーン

『あのひ、わたしは あなたの ちいさな ゆびを かぞえ、 その いっぱん いっぱんに

キスを した。』最初のページは、子が生まれてきてくれたときの感動から始まります。そして、子の成長ごとに思いつく話をしてるように進みます。途中からは視点が子の未来に向けて、‘Someday’「いつか」こんな日が来るかもしれないよねと続きます。子が悲しい知らせを受けた「いつか」や、子が親元を離れる「いつか」、その子が親になる「いつか」、というように。そして、最後のページは老いた子に向けて、こう締めくくられています。

『わたしの いとしいこ。 そのときには、 どうか わたしの ことを おもいだして。』

子が生まれて、その子が老い

るまで、親はずっと子を見守っているよ。近くにいないとしても、もしかしたら、この世にいなかったとしても、子が嬉しいとき、悲しいとき、どんなときでも、たとえ、いくつになっても、ずっと見守り続けているよ、というメッセージに感動しました。

◆お勧めの理由

わが子が親元を離れ、結婚し、親となる日を想像するとき、子

を思う気持ちがじんわりとあふれてきます。私たち大人が子の生きる未来を少しでも良くしたいと願うのも親心からなのかもしれません。

最近、日本だけでなく、世界中から耳をふさぎたくなるような情報、どんな子どもにも伝わりません。こんな時代だからこそ、また、小学、中学と、どんどん自立していく年頃の今だからこそ、あえて、「親が子を思う気持ち」という、かけがえない情報をお子さまに伝えてみてはいかがでしょう。か。気軽に読む方は、この絵本に自筆のメッセージを添えて、本棚にこっそり忍ばせてみませんか。

pleasure イラスト&クイズ



PN: てま (損斐郡)



PN: タコウインナー (関市)

QUESTION -3

トラを食べちゃう車って
なあに？



出題・坂井遥香 (各務原市)
〈答えは41ページ〉



三井住友海上の安心

GK



お父さんのプチ命令

各務原市立鷺沼第一小学校PTA会長 神谷 博幸

神谷家
の巻

58



僕が子ども達と交わす、約束という名の「お父さんのプチ命令」を紹介します。

約束① 旬の食イベントを大事にすること

七草粥、節分の恵方巻き、土用丑の鰻など、四季折々の食行事を家族揃って食卓を囲み、話題にしながら楽しい時間を共有します。

約束② 夕食のとき、持ち帰ったテストを見せること

長男が入学し早八年になりますが、全てのテストを見せてもらっています。自分が小学生の頃に習った記憶や思い出、当時とは解答が変わってしまった語句など常に新発見があり、僕にとって最高のおかずです。

約束③ 漫画を専用本棚に陳列すること

子どもが漫画を買い始めたのを機に、廊下にコミック専用本棚を設置しました。漫画本が壁一面に並ぶと壮観で、子ども達自身が積極的に片付け、陳列を楽しんでいます。並んだ漫画から子どもの興味を探り、会話のきっかけづくりに機能しています。



話そう!語ろう! わが家の約束

わが家は、私達夫婦と高校二年の娘、中学三年の息子と私の父、母の六人家族です。家族のコミュニケーションを大切に考えるわが家の約束を紹介します。

約束① タブレット端末及びゲーム機は、原則夜の九時まで

以前も同じような約束を作った事がありましたが、なかなか守る事が出来ませんでした。しかし今年の五月に、瑞浪市PTA連合会と、瑞浪市青少年育成市民会議が連携して「瑞浪市ケータイ・ゲーム機・ネットに関する家庭のルール」を作成して頂いたのをきっかけに、再度、わが家の約束として設定したところ、徐々にですが守れるようになってきました。

約束② 卓球でコミュニケーション

私が中学校の卓球クラブのコーチをしている関係で、長男と毎週末一緒に卓球を通じてコミュニケーションを図っています。また、長女や私の父も卓球をするので、親子3代、自宅で卓球を楽しんでいます。



工藤家
の巻

59



瑞浪市立稲津中学校PTA研修委員長 工藤 健一

親子三代でコミュニケーション

★子の思い

ぼくのゆめ

瑞穂市立南小学校

二年　　すずきそつま

ほとくのゆめは、小学校の先生になることです。なぜなりたいかというと、みんなのことをいつも気にして、こえもかけてくれるし、みんなからしんらいされているのがカッコイイとおもったからです。

のときはなしをする

と、クラスの中ではつひようかに
がてな子がいて、先生がやさしく
はげましてくれたので、みんなの
前ではつひようすることができ
ました。ぼくたちがどんなにお
うえんしてもはつひようできな
かったのに、先生のこえかけでゆ
うきが出てはなせるようになった
のを見てすごくすてきだなと
おもいました。

しょうらいほくが小学校の先生になるためには、スポーツなどからだをきたえたり、たくさん

のともだちをつくっていろいろなことをしていきたいとおもいます。

私の「あったか」あいさつ

山県市立美山小学校

六年 木村莉子

「あったか」あいさつって何だろっ。

た「あつたか」あいさつという意味が、四月の頃はよくわからず、何となくあいさつをしているだけでした。ずっと私の疑問でした。

しかし、あることに気づいてから少しずつ「あったか」あいさつの意味がわかるようになってきたのです。朝や帰りなど、私も先生や友達とたくさんあいさつをします。その中でも特に、松尾先生にあいさつを返してもらうと、心がぽかぽか、ほんわかしてきます。松尾先生のあいさつはどこが違うのだろうと考えました。先生は、誰にでも元気に笑顔であいさつを

してみえます。しかも、きちんと相手の顔（目）を見ながら。

この姿が校長先生のおつしやつた「あつたか」あいさつだと気づきました。それから、笑顔で相手の顔を見てあいさつをするように心がけています。

ある日のことです。

校長先生に、「笑顔でいいね。見ていてこちらもあったかい気持ちになります。」とほめていただきました。私も、つくった笑顔ではなく、自然と笑顔でできるようになっていたのです。さらに、あいさつを交わす相手も笑顔になっていることにも気づきました。「あっ、たか」がつくだけで、こんなに違うあいさつになるのだと改めて気づきました。

私は、「あつたか」あいさつをするということは、あつたかい心を届けるということだと思えます。これからもあつたかいやさしい気持ちをも多くの人に届けていきたいです。

一つの目標に向かって

郡上市立郡南中学校

三年末松昇悟

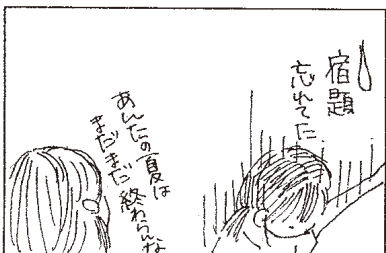
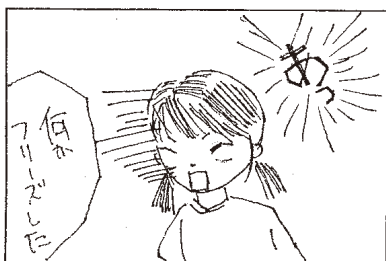
私が通っている郡南中学校は、百三十三人の生徒が楽しく日常生活を過ごしています。

今、私たちが目指していることは「郡上市・岐阜県一の中学校」にすることです。これは、今までの先輩方が大切に受け継いできた合言葉です。この合言葉を私たちも受け継ぐと日々努力しています。

今年の三月、私は生徒会長に立候補しました。私が会長に立候補した理由は二つあります。一つ目は、先輩たちが大切にしてきた伝統をしっかり受け継ぎ、さらに良いものにしていきたいと思ったからです。二つ目は、先輩への憧れです。昨年の先輩方は、掃除・挨拶など日常生活一つ一つを大切にしてみえました。特に、生徒会長の日常生活すべてにおいて、自ら姿で示し、

大垣桜高校
まんが研究部

夏休みの思い出



逆さ言葉

わるいにわとりと
わににいるわ
(悪いニワトリとワニいるわ)

出題・間野史奈（多治見市）

親の願い

先輩方が大切にされていたように、日常生活全てにおいて手本となり、郡上市一・岐阜県一の学校目ざして全校を引っ張っていきます。

子どもの中に見つけたもの

美濃市立中有知小学校PTA

堀江 まゆみ

子育ては「発見」の連続です。
長女が二歳位の時、音楽教室に通っていました。親も一緒に歌ったり踊ったりするので、歌詞や振付けなどをがんばって覚えなければなりません。

ある時、習った歌を娘と一緒に歌っていました。曲の途中まできて「ここから先は、まだ覚えてないなあ」と思った時、娘がすらすらと続きを歌いだしたのです。私はびっくりしました。「娘は自分とは別個の人間なんだ」と、気づいた瞬間でした。

その後、次女、長男と子どもを授かると、また新たな発見をしました。

わが家では、子どもが一歳になると、記念写真を撮りに行きます。長女の時は愛嬌よくご機嫌で、選びきれなくらいいたくさん良い写真が撮れました。

次女の時も同じように、かわいい

い姿を楽しみにしながら撮影に行きました。ところが、次女は私が少しでも離れると激しく大泣き！カメラマンさんは、私が画面に映っていない一瞬を狙ってシャッターを切るといふ、なんとも緊迫感あふれる撮影になったのでした。ころうじて二枚だけ撮れて、ほっとしたのを覚えています。

それまでの私は、子どもは親の認識の範囲で認識し、性格は育つ過程で徐々に作られるものと思っていた。ほんの小さい子どもでも、自分の五感で感じ、記憶し、生まれながらにこんなに違う個性をもつものなのだと、とても驚きました。それはつくられるのではなく、もともと内にあるものが年ごとに「表面に出てくる」ような感じ。まるで石の中から彫像が刻みだされるように、少しずつ細密に、目の前に現れてくるのでした。

「自分とは違う」「みんな違う」という実感は、私の周りへの見方を変えました。ほかの子どもたち

や、大人の方たちも含めて、今まで以上に「すごいなあ」と感じるようになったのです。さらに、自分自身についても、「自分は自分であって良い」という考えがもてるようになってきました。

これらの体験から、小さくても一人の立派な人格として子どもを尊重し、対峙していくことが大切だと考えるようになりました。時には大声で怒ったりもしながら、落ち着いたら、ゆっくり丁寧な言葉で語り、聞き、対話できる大人の人間でありたいと思っています。

親子三世代同居が理想

加茂郡七宗町立上麻生中学校PTA
会長 今瀬 芳尚

私の住む加茂郡七宗町は、ご多分に洩れず少子高齢化の進む地域です。当町内には二校の中学校がありますが、二校の生徒を合わせても百名に達しない小規模な学校です。

両校の生徒達は、それぞれの地

られる日々を過ごしています。

子育てを一気に担当してくれている我が妻が、三十年の子育てを通して、親子三世代同居が子育て環境と情の成長にはとても良いと結論を出しています。

我が家では四世代同居の期間も経験して居ます。幅広い年齢層が同居する中では、当然我慢しなければならぬ事も多々あります。また、嬉しい事も何倍も経験しますし、喜怒哀楽を肌で感じていると思います。昨今、青少年が関わる悲惨な事件が都会田舎を問わず起きています。家庭環境から来る、子どもへの関心が薄れているのでは無いでしょうか？多干渉の親子・父母関係に問題が起きているスモもありますが、適度な距離間（目をつむる所・干渉する所）を保てる、三世代同居が、人間性成長に大きな役割を果たすと実感しつつある、今日この頃です。

我が町でも親子三世代が同居する家庭が多く、子ども達にも思いやりの気持ちと、落ち着き感が表

「うちでは、あいさつをととても大切にしています。」

「うちは、家族でスポーツを続けていますよ。」

「わたしの家では、食事のマナーを大切にしていますね。」

「うちは、家族がそれぞれ学ぶことを続けています。」など。

各家庭にはそれぞれの文化があることがわかりました。芸術に秀でた家庭もあれば、しつけとあたたかい心を大切にしている家庭も。スポーツに親しむ家庭も。実に多様です。

子どもが育つ時、家庭に文化があることで社会性や公共性が育つと共に、子ども自身もいろいろな

文化を見いだそうとします。知的な好奇心が育つことにもつながるでしょう。子どもが「つらい」と思った時、家庭を思い出し、文化を大切にしている乗り越えていくことでしょう。また知的好奇心は新たな意欲となり、自ら進んで学習することにもつながっていくことでしょう。

私の家には「○○○○○○○」という文化がある。保護者が信念を持って創りあげ、子どもと話題にしたいのだと思います。親にしかできないことですから。

たとえば時事ニュースを基にして、親子で会話する。いろいろな文化活動、行事に参加する。食事

中にいろいろな話をする。成長を喜び合う。しつけについて聞かせるなど。

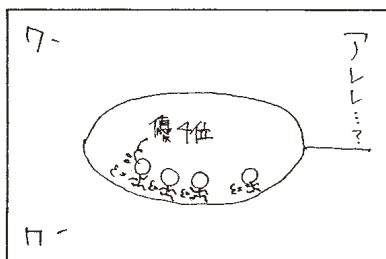
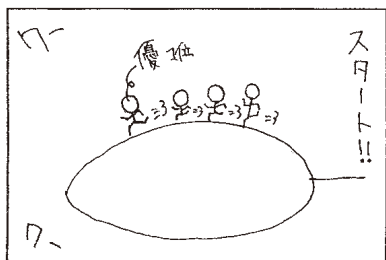
一度、家庭の文化を見つめてみませんか？意識してみませんか？「最近火山の爆発が多いね。地震と関係あるみたいよ。どんな火山があるのかしら。調べてみましょう。」

「読み聞かせがあったようだけど、最近どんな本を読んだの？わたしは子どもの時、インソップ物語を読んだわよ。あなたは読んだことある？」

「あなたはいろいろな人にあいさつしているのね。この前、○○さんが、あなたのあいさつをほめて

大垣桜高校 まんが研究部

運動会



逆さ言葉

このらいおん
おいらのこ
(このライオンおいらの子)

出題・戸田美咲 (可児市)

7月号クイズ答え

Q1 浴衣(ゆかた)

Q2 B 22kg

7月号のクイズ当選者

上田 英気(岐阜市) 山岡 潤惺(関市)
坂井 遥香(各務原市) 長瀬 良磨(美濃加茂市)
林 優奈(各務原市) 戸田 美咲(可児市)
丹羽希里歩(各務原市) 戸田 健斗(可児市)
中森 悠仁(瑞穂市) 安田 恵輔(多治見市)
池田 凜菜(大垣市) 間野 史奈(多治見市)
大平 修也(津市) 尾崎 伸明(高山市)
勝 有萌果(不破郡)

応募方法

応募者は、はがきで、9月末までに下記の宛先へお送りください。

(1人1枚・当日消印有効)

※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824

岐阜市北八ツ寺町7

岐阜県校長会館内

岐阜県PTA事務局

「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●9月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●「わが子のあゆみ」
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

Q1

例のように①②にパーツとなる漢字の一部を入れて、漢字をつくりましょう。

例

「社」になる ㇏ = ㇏ = 也 「地」になる

㇏

㇏

其 = ① = 良 丨 = ② = 央

㇏ 生

Q2

2016年に夏季オリンピックが開催される予定の国はどこでしょう？



㇏ 南アフリカ

㇏ オーストラリア

親子ではてな

9月号のクイズ

「今度は、吹奏楽団のコンサートに家族で行ってみたいよ。」
「友達の絵が入選したから鑑賞に行こうか。」
「レストランなどお店を出るとき、椅子はしっかりと戻すのよ。」
「今日はうれしい日です。だって懇談会で、あなたのことを先生がほめてくださったから。うれしいわ。みなさんで祝いしましょう。」
「食事の時、テレビは消して食べましょうか。今日は楽しいことあった？」
「ゲームは楽しい？ちよっとやり過ぎだと思つよ。時間を決めるようなルールを家族で相談しましょうか。」

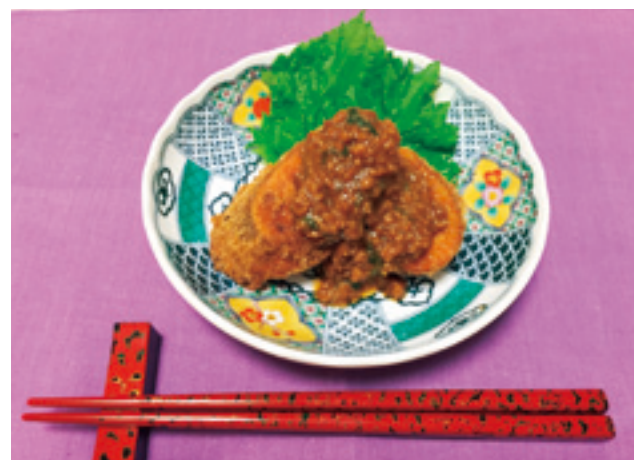
心のふるさと

海津市立南濃中学校
校長 石原 武
南濃中学校は今年度末をもって六十九年間という長い歴史の幕を閉じ、閉校となります。そこで、今年度は歴史に残る素晴らしい学校を創り上げ、有終の美を飾りたいと思っています。そして、最後の南濃中学生としてすべての活動に心を込め、校訓である『誠実』で最高の姿、地域に誇れる姿を目指しています。
生徒会では、南濃中学生としての自覚と誇りを高めようと、スローガンを『ONE FOR ALL ～自治・規律・活気』と設定しました。このスローガンには日常活動の充実とともに、呼びかけ合いそれに応じていく仲間関係を築いていきたという願いが込められています。
仲間づくり部は『自分で考えて行動できる力(自治力)』を目指し、自分から進んで大きな声で挨拶をすることに取り組んでいます。学

習部は『学びとる授業、つかみとる学力』を目指し、ハンドサインによる全員の意思表示や教え合いに取り組んでいます。生活部は『物をそろえる、磨き切る掃除』を目指し、靴や持ち物の整頓、黙々と時間いっぱい掃除をすることに取り組みんでいます。健康部は『気配り給食、健康な体づくり』を目指し、時間内配膳や私語なし給食などに取り組んでいます。
また、昨年度九月に行われたスポーツフェスティバルでは、学級や団ごとに大縄跳び、連脚走などに全員が声をそろえ全力で取り組み、学級や団の心がひとつになり、団結力を高めました。
十月に行われた合唱交流会では、学級ごとに合唱を高めようと学年内の練習や交流だけでなく、他学年との交流も積極的に行い合唱を磨き上げることができました。三年生が手本を示し、一・二年生は少しでもそのよさを自分たちの合唱に取り入れようと必死に練習しました。当日はどの学級も



合唱に込める思いをひとつにして素晴らしい感動あふれる合唱を創り上げることができました。
このように生徒自らの手で南濃中学校の伝統を築き上げ、学校の最後となる今年度もその伝統を継承・発展させていきます。
さらに、今年度は閉校を生徒、保護者、地域の方々に祝い、学校に誇りと愛着を持ち続けていくとともに、学校の歴史と伝統を心に焼き付け、その証となるものを形として残しています。
保護者や地域の方々に支えられているこの学び舎が『心のふるさと』となるよう、生徒が主体となり伝説に残る素晴らしい学校を創り上げていきます。



材料
4人分

・ナス	2本	・ねぎ	30g
・小麦粉	50g	・にんじん	30g
・卵	1個	・豆みそ	40g
・パン粉	50g	・三温糖	大さじ3
・揚げ油	適宜	・酒	大さじ1
・豚ひき肉	40g	・みりん	大さじ1
・サラダ油	小さじ1	・水	50cc

●栄養価(1人分)

エネルギー	220kcal
たんぱく質	6.7g
脂質	8.0g
カルシウム	37mg
マグネシウム	29mg
鉄	1.3mg
亜鉛	0.7mg
ビタミンA	104μgRE
ビタミンB ₁	0.18mg
ビタミンB ₂	0.13mg
ビタミンC	3.0mg
食物繊維	2.4g
塩分相当量	1.3g

★お試しクッキング★

ナスフライの
肉みそかけ



ナスは、夏から秋が旬の野菜です。ナスは、焼く、煮る、揚げるなど色々な方法で調理することができます。ナスそのものは淡泊な味ですが、他の食材と合わせやすく、和食・洋食・中華などどんな料理にも合います。特に油との相性が良いため、食欲も体力も落ちる暑い時期には、炒めたり、揚げたりして食べると油脂をうまくとることができる。ナスの主な成分は、水分と糖質なので、体温を下げる作用があるため、残暑の季節には最適な野菜です。

豆みそは、畑の牛肉と言われる栄養たっぷりの大豆と食塩水で作ります。豆みそには、筋肉や皮ふなどをつくる元になるタンパク質やビタミンやミネラルが豊富に含まれています。また、みそは、様々な健康効果が注目される乳酸菌や酵素を含む素晴らしい発酵食品です。

「ナスフライの肉みそかけ」は、子どもたちにも人気のメニューであり、ナスが苦手な子でも肉みそをかけることで食べやすくなります。ナスをフライにするためまわりがカリッとします。たっぷりの肉みそをかけて食べて下さい。

作り方

- ① にんじんは、みじん切りにする。ねぎは、みじん切りにする。
- ② にんじんが柔らかくなった後、水で溶いた豆みそ、三温糖、酒、みりんを入れて、照りが出るように弱火で煮て、最後にねぎを入れて煮る。
- ③ ナスは、ピーラーで皮をとるところどろろひき、斜めに厚さ1cm位に切り水にさらしてアクを抜く。
- ④ ナスの水気をキッチンペーパーでとり、小麦粉、とき卵、パン粉の順に付け、油でカリッと揚げる。
- ⑤ 揚げたナスに肉みそをかけて出来上がり。

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集していますイラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の回答とともに送り下さい。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■7月号を読んで

「家庭教育を実践する日」わが家の約束を決めて、子どもと過ごす時間を大切にしたいです。そして、日ごろ見過ごしてしまいがちな心の成長を感じられるように、穏やかに過ごしたいです。 Mさん

みんなで家庭教育!社会的に「早く家庭に帰る日」を作り、家族との時間を過ごすよう勧められてきていますが、夕食が済んでからすぐにTVをつけるのではなく、家族と会話を楽しんだり、趣味と一緒に出来るくらいの日常になるといいなと思います。 Nさん

私(母)は岐阜市出身なので、知っている学校名などを見つけると記事を読み、懐かしかったり、今回は岩野田中学校さんが紹介されていて、よく部活の試合をしたんだと、息子の話しました。 Oさん

P5の中津川市立川上小のスケートがインパクトがありました。岐阜市近郊では見られない寒い地域だからその天然のスケートリンク、楽しそうですね。P11「岐阜県家庭教育支援条例」の制度、知らなかったです。多忙になった現代の家庭生活で親子が一緒に過ごす時間も大切ですが、実際にはあまりいらされていないのではないのでしょうか。広く伝える必要があると思います。P21「食育の大切さ」小さな頃から食文化が大人になってからの食にもつながる大切なことではないでしょうか。 Nさん

「私の先生」は、先生が先生と出会い、学んだこと教わったことが書かれているので興味があります。もしかして、出会いがなければ先生は先生で無かったのかもしれないとか、また自分がこの文章を読むことがなかったかもしれない...とか、色々想像が膨らみます。私も学生時代の恩師が、毎日通信を出していました。毎日です。親となって通信は本当に子どもの様子を知るために大切なもので、それを毎日書いて下さって素晴らしい先生だったと感謝の気持ちが改めて湧いてきました。 Uさん

P29のボランティアニュースが良かったです。私たちの小学校も、夏休み最終日曜日が清掃活動の日です。子ども達も気持ちよく勉強できるよう、頑張ろうと思います。 Kさん

「わが子のあゆみ」すべてに目を通しました。購入を迷っていたところ、お借り出来て(学校から)ありがたかったです。P31で紹介されている本を予約しました。2冊とも、早く読みたいです。 Yさん

今回は、清見中学校の紹介で吹奏楽部の写真にお兄ちゃん載っているのを弟が見つけて大喜びしていました。「わが子のあゆみ」を身近に感じたようです。中学生の本人も、うれしそうでした。 Oさん

本の紹介を、いつも楽しみに興味深く読んでいます。小学校で読み聞かせをしています。絵本の紹介などもして頂けると嬉しいです。 Tさん

小学一年生の特集などあればうれしいです。回覧ではなく、各家庭に配布して欲しいです。 Hさん

■編集後記

夏休みも終わり、昨年にも増して暑かった夏が過ぎようとしています一夏を越して、一層たくましくなった子どもたち。学校に子どもたちの歓声が帰ってきました。

岐阜県小中学校長会から、「岐阜県ふるさと散歩」という本が発行されました。この本は、「ふるさと岐阜」に誇りと愛着を育むことを願って、子ども達が実際に「行ってみたい、見てみたい」と思えるようにと、作られたものです。

岐阜・西濃・美濃・可茂・東濃・飛騨の6地区の名所旧跡から自然遺産、古くから伝わる文化や昔話、おいしい食べ物などが読みやすい文章、美しい写真、分かりやすい図や挿絵とともに紹介されています。小学3年生でも読めるように漢字にはふりがながふってあります。「あなたの知らない岐阜がある」「一家に一冊、岐阜県ふるさと散歩を」と、高木勝史先生からお勧めいただきました。

「岐阜県ふるさと散歩」が居間のテーブルに置かれて、親子ふれあいの役割をはたしてくれることを願います。一冊500円。お問い合わせは、岐阜県小中学校長会 ☎058-265-0338

■なぞなぞの答え

- ①ぞうきん ②キャベツ ③トラック

■11月号のお知らせ(予告)

特集(講演)＝はじめて育てる子どもの力(後編)／表紙＝神岡小／学校のたからもの＝三輪小・大垣南小・湖見小・八幡中／わが家の宝物＝下呂小／家庭教育応援団／療育＝岐阜盲学校／お弁当の日＝高山西小／保健室ノート＝梅村小／私の先生＝美濃小／半生記＝日新中／ボランティアニュース＝多治見中・日吉小中・土岐津中・武並小／1冊の本＝北方小・東安中／わが家の約束＝白山小・北和中／子の思い＝大井第二小・江名子小・北陵中／親の願い＝南帷子小・緑ヶ丘中／教育の窓＝上多度小・根尾中／お試しクッキング／ふるさとの伝承＝八百津小／きりりキッズ!＝神測小／我が部活＝旭ヶ丘中／私たちのPTA＝いわ桜小

わが子のあゆみ

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259

ホームページ／http://www.g-pta.com

Eメール／info@g-pta.com

印刷／サンメッセ株式会社

平成27年9月1日 発行
初秋号 第67巻2号
通巻第439号

頒価 200円(年間 1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

下野小学校は岐阜県の東部、中津川市北部（旧恵那郡福岡町）に位置しています。南北に付知川が流れ、緑豊かな所です。明治六年の開校以来、地域で子どもを育てていくという意識が強く、学校教育への協力が伝統的に受け継がれています。

その一つが校地内にある茶畑活動です。広さはほぼ四十アールあります。約六十余年、PTAで代々管理し、お茶を販売し、その収益をPTA活動の資金として運用しています。

茶畑が黄緑色になる五月、子ども達は毎年、祖父母や保護者と新茶の手摘みを行います。祖父母、保護者、子どもと三代で手摘み作業を行う家庭も増えてきました。祖母や母親から茶葉の摘み方を教わりながら作業をする姿があります。

以前は、子ども達が「お茶」に関わる機会は、「手摘み体験」だけでしたが、本校の特色である「お茶活動」を子ども達の自慢にしたいと、五年生が総合的な学習の時間で学習をすることになりました。

「お茶のある暮らし」と題し、下野小学校のお茶活動の歴史、お茶の摘み方や入れ方、お茶と生活との関係などを学んでいます。平成十九年度から始めた、地域の方を招待して行う「新茶を味わう会」も五年生が中心となって進めます。毎年、祖父母や保護者、地域の方など約八十名の方が来てくださり、楽しいひとときを過ごしています。

さらに平成二十二年度、約六十年続くこの活動を、今後にしつかりと継承していくためにも歌を残したいと、茶畑担当PTA役員の強い願い

により、下野小茶摘み歌を制作しました。歌詞はお茶摘みの時に児童が作った一行詩をつなぎ合わせ、曲は地域在住のピアノ教師の力を借りました。

タイトルは、「きみどりのジュウタン」。この歌には、

・家族と一緒に歌を歌いながら楽しくお茶摘みをする。

・下野小の伝統あるお茶畑を維持し、お茶摘みを今後も続ける。

・いつまでも心に残る歌として、思い出に残していく。

・下野小の素晴らしい環境を、内外にアピールする。

という思いが込められています。子ども達は、五月の歌として、学級や全校で毎朝歌っています。

これらの活動を通して、下野小学校の「お茶活動」が、地域や保護者に支えられ、子ども達の自慢と誇りになつてくれればと願っています。



▲【新茶を味わう会】
5年生が総合的な学習の時間でお茶の入れ方を勉強。5年生が中心となって、会の進行や給仕を行います。新茶入りのお茶菓子も作ってもてなしました。



▲【新茶を味わう会 全景】
今年も約80名の祖父母、保護者、地域のお年寄りが参加してくださいました。



▲新茶を味わう会で、下野小茶摘み歌「きみどりのジュウタン」を全校で歌う。



▲【新茶を味わう会】
お茶つみや新茶のことを題材に児童一人一人が一行詩を作りました。その中で、上手な作品を全校の前で発表しました。



▲【全PTA会員による茶畑作業】
一番茶の機械刈り。7月には二番茶刈りもします。そのほかに草刈り作業も行います。



▲▼祖母、母、子ども3代で茶摘み。



▲【5月18日 祖父母との手摘み体験】
摘み方を習いながら作業。約80名の祖父母や保護者が一緒に作業。この日は約90kgの新茶を摘みました。

下野小茶摘み歌

きみどりのジュウタン

作詞・作曲 下野小茶摘み歌
制作実行委員会

一、学校坂の両わきにきみどりのジュウタン
かけっこしながら笑い声
茶摘みの季節がやってきた
お日さまパワーももらったやぶきた茶
元氣いっぱい下野のお茶

二、茶畑に赤白の帽子だけ動いてる
あの子はどこにいるのかな
新芽があふれる茶摘みかご
茶の香り指先に広がって
心もあつたが下野のお茶

三、おいちゃんおばあちゃん僕たちと私たち
心をこめて摘みました
ゆっくりにゆっくりに味わって
ゆのみにそそぐ緑の宝石
光り輝く下野のお茶

お茶活動

きらり！キッズ！

元気に登校する木田っ子

本校は岐阜市の西部に位置し、自然豊かで閑静な環境にあります。地域は、北部が調整区域指定のため広い田畑が広がり、南部には住宅が密集するという特徴があります。全校児童数は一六〇名です。

学校の教育目標「自分で・みんなで・創り出す」のもと、「一人一人の子どもが毎日楽しく過ごせる学校」を合い言葉に、コミュニティ・スクールとして、家庭・地域と協働して取り組んでいます。PTA活動もさかんです。PTAの有志による「おやじの会」は、芝生化された校庭の維持や朝の挨拶タッチへの参加など積極的な活動を推進しています。また、東日本大震災で被災した女川小学校への復興支援活動をPTA活動として始め、継続しています。二十六年度は「木田ふれあい夏祭り」の「復興支援ブース」東北物産展の販売に小学校の子どもたちが自主的にかかわり、売上利益と義援金箱に寄せられたお金から、キーボードを購入して送りました。

子どもたちは皆仲良く、休み時間に芝生の上を走り回ったり、朝登校するとき元気な挨拶をしたりしています。次ページに、本校の特色ある活動を紹介いたします。健康教育の活動として全校で実践している歯みがきの様子と、総合学習（キャリア教育）として五年生が地域の和菓子店と連携して起業家教育の活動をする子どもたちの様子です。



▲あいさつタッチをするおやじの会



芝生の補植をするおやじの会



▶夏祭り復興支援ブース

歯みがきの実践

「みがき残しがない歯と口腔の爽快感を味わう子」

学校歯科医や岐阜県及び岐阜市歯科医師会の先生方のご指導と、PTAの方の理解を得て、週に一回フッ化物洗口を実施しています。歯の質を強くし、口腔の環境を整えることで、むし歯ゼロをめざしています。食の大切さを知り、発達やその子に適したみがき方ができるように、岐阜市保健センターの歯科衛生士や地域の保健師から、みがき方などのポイントを押さえた口腔指導を受けています。また、学童歯みがき大会にも参加しています。



◆自分の歯を観察し、あまり磨けていない所を見つけて、プリントに記入します。



◆染め出しチェック実施中！自分の歯をピカピカ・お口すっきりにしようと、一生懸命みがいています。



◆給食後は、毎日歯みがきをします。みんなでみがくと、楽しくて、自然に笑顔になります。



◆手鏡に写る自分の歯を見ながら、みがき残しがないか、真剣にチェック！

起業家教育の実践

「地域の和菓子店と連携してオリジナル和菓子を開発する子」

平成十八年度から、五年生の総合学習（キャリア教育）の一貫として、起業家教育を進めています。校区の和菓子店のご協力を得て、自分たちの考えた和菓子の商品開発をし、販売につなげる活動です。子どもたちが市場調査、アイデアの交流や宣伝活動をするなど、商品開発から販売までを行います。



◆評価会を受けて商品を決めました。秋に販売するため、旬の材料を入れた和菓子です。



◆地域の方や保護者の方にアイデアを説明しました。



◆仕上げとして、子どもたちが形を整えました。最終チェックをし、ていねいにパックにつめました。



◆販売が始まり、お客様の長い列ができました。ていねいな対応を心がけました。



◆近くのスーパーで調査をし、どんな和菓子がよいかを考えました。



◆協力してくださる地域の和菓子屋さんで、おすすめの商品や商品陳列の工夫を教えてくださいました。

わたしたちが考えたお菓子 起業家教育

5年生が、模擬会社を立ち上げ、自分たちで新しい和菓子のデザインを考え、校区の和菓子店「末廣屋本店」さんに製造していただき、販売しています。実際に商品開発、販売、決算まで行い、仕事に対する理解を深めています。

吹奏楽部



- ①吹奏楽部には「中部日本吹奏楽コンクール岐阜県大会金賞」という夢があります。それを実現させるため、「心と音」を合わせることを大切に練習してきました。本番で成果が発揮できるように、夢に向かって頑張っています。
- ②大切にしていることは、「基礎練習」と「仲間」です。基礎練習よりも合奏の方が楽しいけれど、基礎ができないのに曲は吹けません。吹奏楽は団体なので、仲良くよりよい音づくりに励んでほしいです。

パソコン部



- ①全員がパソコン操作に興味をもって、みんな進んで技能の向上を目指しています。ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを自由に使いこなせるように練習をしてきました。そして、ICTプロフィシエンシー検定(P検)の合格を目指して、ICT活用に関する知識や技能、問題解決力を向上させるために努力してきました。
- ②パソコンにかかわる色々なことに興味をもって、幅広い知識や技能を身につけていってください。そして、進路にもつながる資格の取得に向かって、みんなで頑張っていってほしいです。



茶道部

- ①月2回、お茶の先生にご指導を受けながら、きちんとした儀作法やお点前を身につけることができるように、集中力を大切にしました。時々、先生方にもお茶をふるまて、自分を磨いてきました。
- ②11月の市文化祭までは一緒に練習しながら、それまでには、みんなが、お点前を完璧にできるようがんばろうと思います。



美術部

- ①一人一人が「こんな物をつくりたい」という目標をもって活動してきました。また、それぞれの作品を楽しんで制作したいという願いをもって作品作りをしました。市文化祭で展示する作品や美術部の展覧会に向けても制作を進めています。
- ②上手・下手に関係なく、自分が制作に楽しみを感じられると活動がより良いものになると思います。また、普段使えないような画材もあるので、それらを体験してみると面白いかもしれません。今以上に、絵や美術への興味を深めていってほしいです。

卓球部



- ①「全国大会出場」を目標に日々練習してきました。サーブ練習に時間をかけ、狙った所に球が出せるようにしたり、課題練習などをしたりして、全員で技術の向上を目指してきました。みんなで励まし合って、目標に向かって頑張っていきたいです。
- ②大切にしたいことは、試合中の声とあいさつです。声を出すことによって、チームの士気を高めることにつながっていくからです。チームメイトのことを大切に、練習に励んでください。



剣道部

- ①どの大会でも自分たちの力を出し切り、本県ブロックを勝ち進み地区大会へ出場することを目指して取り組んできました。「強くなりたい」という夢を持ち、厳しい練習にも真剣に取り組ましました。個人としては、本県ブロック3連覇を目指してきました。
- ②礼儀を大切に、毎回の練習に真剣に取り組むことを大切にしています。そして「勝てない」ではなく「勝つんだ」という気持ちをもって試合にのぞんでほしいです。自分の夢に向かって歩いていってください。



柔道部

- ①毎日の一つ一つの練習を大切に、一つでも多くの試合に勝てるように頑張ってきました。打ち込みを一回一回大切に、きれいに投げるができるように、試合でも技が出せるようにしています。
- ②どれだけ大変で、辛くても、あきらめずに練習に励んでもらいたいです。練習ができることをありがたくなって、柔道に励んでください。夢は大きく持って、がんばってください。



男子バスケットボール部

- ①全員で声を出し、一つ一つの行動を早くして、練習量がより多くなるよう、練習密度がより高くなるように頑張ってきました。結果も去年より良くなってきているので、中体連でも、今までやってきたことが出来るようにしていきたいです。
- ②礼儀を大切に、一つ一つの行動を早くして、自分たちの目標に向かっていってください。そして、励まし合い、チーム内でも競い合って、高まり合う仲間になっていってください。



女子バスケットボール部

- ①一試合一試合で全力を出し切り、一つでも多く勝つために、練習から一人一人が声を出すこと、最後の一秒まであきらめないこと、どんな練習でも一生懸命取り組むことを大切にしてきました。
- ②仲間を大切に「友愛」、自分から声を出しチームを盛り上げる「挑戦」、苦しい状況や練習でもあきらめない「克己」を大切に、県大会一勝を目指して、チーム力を高めていってほしいです。



陸上部

- ①一人一人の専門種目や現在の体力に合わせて、自己ベスト、入賞を目指して、毎日の基礎トレーニングを大事にし、練習メニューを工夫し活動してきました。練習では、お互いに励まし合ったり、競い合ったりして高め合ってきました。個人としては、県中体連入賞という夢を目指して、技術向上を頑張っています。
- ②努力を惜しまず、頑張った分だけ結果はしっかりとってくることを忘れず、練習に励んでほしいです。いずれは部を引っ張っていかねばならないので、頼られる先輩になれるように頑張っていってほしいです。

燃えよ青春 糸貫中学校の誇りをもって

糸貫中学校は、岐阜市と大垣市の間に広がる豊かな田園地帯に位置する全校生徒395名の学校です。本県市は、富有柿や薄墨桜、根尾断層などで知られる、豊かな自然に恵まれた歴史ある市です。

学校のわきを流れる糸貫川は、平安時代には鶴の名所として数多くの和歌の歌枕に詠まれており、校旗にも鶴のデザインが取り入れられています。

学校の教育目標「友愛・挑戦・克己の心で行動できる生徒」のもと、部活動においても、励まし合い、競い合い、鍛え合い、しなやかで強い心と体、卒業後も続く仲間づくりを目指しています。保護者、地域の社会人指導者の方々の支えもあり、朝に夕に、元気な声が校内に響いています。



男子バレーボール部

- ①3年生の部員は僕ひとりでした。バレーは一人ではできません。先輩や後輩がいて、チームとして活動や試合ができます。「少人数でも団結を」に心に、チームで活動できることに感謝して、毎日の練習を頑張ってきました。
- ②まず、あいさつや規律を大切にしていってほしいです。生活の基本となるからです。次に、練習から大きな声を出して元気よく活動してほしいです。試合でいい流れを切らないためにです。そして、バレーをもっと知って楽しく活動してほしいです。みんなバレーが好きで入部してきたのだから、チームで活動できる楽しさを味わってほしいです。



女子バレーボール部

- ①本県ブロック大会優勝、そして地区大会を勝ち進み、県大会出場を目標に、練習を頑張ってきました。練習では、トスを正確に上げることやどんな状況でも強気で攻めること、試合では、粘り強くラリーを続けながら流れをつかんでいくことを大切にしてきました。
- ②あいさつをしっかりと、礼儀のある部を継続していってほしいです。そして、自分たちの決めた目標に向かって、毎日の練習を頑張っていってほしいです。バレーはチームワークが大切です。いつでも仲間と励まし合いながら、チーム力を高めていってください。



野球部

- ①野球部が目指しているものは、文武両道です。野球はもちろん、勉強を含む学校生活全体でも全力で取り組み、糸貫中学校の「顔」として学校や地域に貢献できるようにすることが目標です。そして、地域の方々や学校の仲間、多くの野球好きな方々に、心から応援していただけるチームを創ることを目指してきました。
- ②野球選手である前に、糸貫中学校の生徒であることを自覚して行動することを大切にしていってほしいです。
 - ・フェアプレイ、相手の一生懸命なプレイには拍手を送り、謙虚に学ぶ姿勢をもって、チームを成長させてください。
 - ・考える野球「自分はこうなりたい」という目標を持ち、それを目指して全力で取り組んでいってください。



サッカー部

- ①県大会出場を目標にして、声を出すこと、一つ一つの練習の意味を考えてやるということを大切に頑張りました。また、サッカーだけではなく、あいさつや服装、身なり、礼儀などの生活面も意識してきました。普段の生活ができてこそ良いサッカーができ、強いチームになれると信じ、部員全員が日常生活をすごしてきました。
- ②大切にしたいことは、常に相手より「勝ちたい」という気持ちを強くもつことです。サッカーの勝敗は気持ちで変わります。自分たちが高い志と勝ちたいという強い思いをもつことが大切です。最後まで悔いの残らないようにしていってほしいです。絶対、県大会まで行ってください。がんばれ!

夢中！熱中！ 我らが部活

本県市立糸貫中学校

部活動にける夢と題して、各部の部長に以下の内容について書いてもらいました。(6月26日)
①どんなことを目指して取り組んできたか。
②後輩には、どんなことを大切にしていってほしいか。



男子ソフトテニス部

- ①県大会出場を目指し、常に声を出し続けることを大切に練習してきました。練習の切り替えを素早くすること、先輩、後輩関係なく全員で準備、後片付け、球拾い、球出しをして、全員が無駄なく練習できるようにしてきました。
- ②これからも、部長の指示をしっかりと聞いて、きびきび動くことを大切にしていってください。チーム内で競い合って、お互いを高め合って強くなるよう頑張っていってください。

女子ソフトテニス部



- ①昨年度の秋から一人の部員で活動してきたので、なんと次年度の学年につなげたいという思いでした。今年は17名もの新1年生が入部してくれて、とてもうれしい気持ちでいっぱいです。
- ②1年生だけの活動になるので、何もかもが新たなスタートになると思います。もう先輩はいないので、自分たちの力を合わせていってください。技術面の成長は当然ですが、さわやかなあいさつができたり、礼儀正しさを大切にしていてほしいです。ソフトテニスができる喜びや感謝の気持ちをもち、がんばっていきましょう。

私たちのPTA

下呂市立馬瀬中学校PTA

平成27年度PTAスローガン

家庭、地域、学校が連携し、
子どもの安全と成長を見守ろう。

学校紹介

馬瀬地区は、下呂市の馬瀬川沿いに南北に伸びる地域です。「日本一美しい村」として美しい農村風景や鮎つりなどで知られる自然環境に恵まれた地域です。

本校は、田園風景を一望できる高台にあり、教室の窓から四季折々の眺めを楽しむことができます。また三世代同居の家庭が多く、体育祭等の学校行事には、祖父母の方々も参加していただくなど、地域の方々から大切に支えられている学校です。

学級数三、生徒数二十九名の小規模校のよさを生かして、生徒同士がお互いの家族のことも含めてよく分かり合い、兄弟姉妹のように育っています。まるで大家族のような学校です。人数が少ないからこそ、一人一人が大切な存在として、どの子も何らかのリーダーとなって活躍しています。馬瀬を愛し、ふるさと馬瀬を誇りに思う生徒を目指して、「自信と挑戦、誇りづくり」を合言葉に保護者、生徒、地域が一体となった活動をしています。

馬瀬中学校全景

PTA紹介

PTA会員数は二十五家庭です。みんなで参加して、みんなで活動して、みんなで盛り上げるPTAです。PTA行事には両親揃って参加する家庭もあり、三年間に一度は誰もが役員を経験しています。役員の決定も立候補によって決まり、積極的な参加が根付き、それが伝統となっています。

同じ地域の馬瀬小学校PTAとの連携も大切にしており、資源回収、河川清掃、地区懇談会、防災ポスターの募集等を合同で行っています。

小中PTA共同事業
「防犯・防災ポスターの募集」
毎年夏休みに、小中学生全員がポスターや標語を応募しています。保護者も標語を応募しています。



小中PTA合同資源回収
児童生徒数は少なくなりましたが、地域全体から支えられ、多くの方に協力いただいています。



小中PTA合同河川掃除
地域ごとに河川の掃除をしています。馬瀬川が夏休みの水泳場となります。

数ある活動のなかで「学級委員会」の活動を二つ紹介します。

親子研修活動

「情報モラル研修」「薬物乱用防止講座」「お弁当の日講演会」など、機会あるごとに研修を行っています。大切に行っていることは、どの研修も「親子研修」にして、親子で同じ話を一緒に聞いて、一緒に学ぶことです。家庭に帰っても話題にしたり、親子で約束を決めたりするなど実践に結びつけることができます。これも「PTA活動に全家庭が参加する」ことが当たり前になっている「馬瀬中学校PTA」だからできることです。

親子コミュニケーションの会

夏休みの環境整備作業の後に、「親子コミュニケーションの会」を行っています。一昨年度はラジオ局に来てもらい、体育館をスタジオにして親子インタビューを受けました。それは、実際にラジオで放送されました。

昨年度は、「親子あねかえし作り」を行いました。保護者が講師になり、地域の名物である「あねかえし（あん入りもちぎ餅）」を親子で一緒に作り味わいました。今年度は、「親子餃子作り」を計画しています。

こういった楽しい親子活動を行うことで、思春期に入り親子の会話が少なくなりがちな生徒も、和気あいあいと笑顔で保護者と声をかけあって活動を楽しんでいます。



親子環境整備作業
保護者の働く姿を見て、生徒も力を発揮して学校を美しくします。

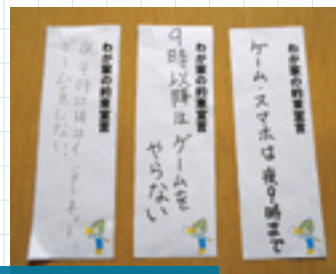


お弁当の日講演会
お弁当の日提唱者竹下和男先生を招いて「お弁当の日講演会」親子でお話を聞いて家庭での実践につなげました。

親子で学ぶ「薬物乱用防止講座」
体験者の話を聞いて、薬物が身近にあることや、自分で考えて判断し行動することの大切さを実感しました。



お弁当の日
掲示物にして一人一人の計画や反省を紹介しました。



わが家の約束宣言
親子情報モラル研修のあとで「わが家の約束宣言」を家庭ごとに書きました。家庭で掲示して親子で守れるようにしたいです。



親子コミュニケーションの会「あねかえし作り」
郷土の味を親子で和やかに作り、おいしく味わいました。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

美濃加茂市立下米田小学校

※よなだっ子広場…PTAと地域ぐるみで「温かい心もち、やる気と自信をもった下米田の子」の育成を目指し、活動しています。



「よなだっ子広場」げんこつあめつくり

鍋から出された生地を大事にこねて、一口サイズにする頃には、試食もバッチリ。楽しく美味しい体験ができました。



「よなだっ子広場」ミニテニス体験

低学年の子も夢中になって、ボールをラケットでとらえようと歓声をあげました。



Eタイム

英語の授業で、ネイティブの発音にふれながら仲間と楽しくコミュニケーションしています。



5年生のマリン合宿

アジの一夜干しを作って、家へのお土産にしました。



「よなだっ子広場」星を観る会

5月の夜、地球村「星クラブ」のみなさんの大きな天体望遠鏡8台で、木星と金星を観ました。



はぐるま活動

学年をこえて交流し、全校のみんなが仲良くなります。

わが子のあゆみ
2015.9 No.439 初秋号
第67巻2号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ